

**株式会社 K2インターナショナルジャパン**  
**「合宿型プログラム」**  
**SROI評価報告書**

株式会社 公共経営・社会戦略研究所

2014年9月30日

## 目次

1. 本評価の目的と研究方法・概要 .....	- 3 -
2. SROI（社会的投資収益率）分析による費用便益分析の概要（SROI 概説） .....	- 10 -
2.1 SROI アプローチの特徴.....	- 10 -
2.2 「with-without」の比較.....	- 10 -
2.3 SROI の算出プロセス .....	- 11 -
3. 本評価における SROI 分析 .....	- 15 -
4. SROI の計測結果：インパクトマップによる可視化 .....	- 21 -
5. 考察 .....	- 27 -
【参考資料】利用者近況アンケート集計結果 .....	- 28 -
アンケート原票.....	- 38 -

# 1. 本評価の目的と研究方法・概要

## (1) はじめに

本評価は、K2 インターナショナルグループ(以下、K2)における若年無業者向けの「よこはま型合宿プログラム」に対して、その社会的効果(社会的インパクト)を、SROI(Social Return on Investment)(社会的投資収益分析)という費用便益手法を用いて計測・評価するものである。K2は、横浜市を拠点として、生きづらさをもつ若者を対象に、就労・自立支援にかかわる専門的かつ包括的なサービスを提供しており、高い社会的評価を得ている。

K2は、1989年に活動を始めた任意団体インターナショナルコロンブスアカデミーを前身としており、およそ20年間にわたって不登校・ひきこもり・発達課題など、生きづらさを抱えている若者達の自立就労を支援し、共に生きる場を作ってきた組織である。

宮本みち子は著書『若者が無縁化する』のなかで、「現在の若者支援は相談支援が中心で生活支援まで踏み込むものは少ない。職業訓練についても、資格やスキルを身につけるものが中心で、若者の状況に合わせた生活リズムや人との関係の回復などの基礎訓練や、共同生活による生活丸ごとの支援などは切り捨てられている」(宮本、2012: 144)と述べている。

K2では宮本が指摘するような従来の若者支援とは対照的に、「労働のセーフティネット」として機能しうる包括的な支援メニューを提供している。K2グループ全体をみると、若者を様々な入り口(サポステ、直接、塾)で受け入れ、グループ内に合宿施設とにこまる食堂などの中間的就労の場をもつことにより若者に包括的なセーフティネットを提供する一方で、多様なステークホルダー(若者本人、家族、地域、店舗の顧客、雇用企業、行政)にも価値を提供している。

現在、K2は以下の事業群から成り立っている。

- ① 相談支援(湘南・横浜サポートステーション、にこまるカフェ相談室等)
- ② 居場所・相談室運営(横浜南部ユースプラザ、学童保育ぽによぽによ、子育て支援拠点くすくす)
- ③ 生活支援(共同生活寮、Y-MAC寮等)
- ④ 就労支援(にこまる食堂、アロハキッチン、お好み焼きころんぶす、よこはま型若者自立塾等)

K2は若者の自立にむけて以下の3段階のステップを提案している。

- 第1ステージ：共に生活するということ(心理的援助からSSTまで)
- 第2ステージ：就労訓練(就労トレーニングから自活の場まで)
- 第3ステージ：就職(マッチングから自立まで)

K2の特徴は、第1に共同生活の場である合宿所において家族的な関わりをもち、難度の高い若者を受け入れることができる点である。共同生活を通じて、それぞれの人の個性を理解し、それぞれの段階に応じたサポート・ケアを提供することができる。

第2に、K2内に雇用を持つことで中間的就労の場を提供できる点である。それぞれの得手、不得手に配慮した就労の場を提供することができ、能力に関係なくあらゆる若者が働けることを可能とする。

第3に、多数の若者を受け入れることにより多様な事業を展開できる点が挙げられる。例えば、学童保育ぽによぽによでは多くの若者を受け入れているため、24時間の対応が可能となり、保護者からは安心できる地域のセーフティネットとなっている。

今回の SROI 分析は、こうした包括的支援の効果を踏まえつつ、合宿型サービス、特に「よこはま型合宿プログラム」に焦点をあてて、その社会的価値を計測するものである。

## （2）本評価の目的

本評価は、K2の若年無業者向け合宿型就労支援プログラム（「よこはま型合宿プログラム」）の費用対効果を SROI(Social Return on Investment: 社会的投資収益分析)を用いて計測し、その社会的インパクトを可視化し貨幣化することを目的とする。

本 SROI 評価では、一般労働市場への移行（就労）というアウトカムだけではなく、就労と密接に関連した「中間的アウトカム」（自信の向上、精神的不安の減少、家族関係の改善、社会関係の改善など）もアウトカムとしてとらえ計測し貨幣化する。また、就労後の継続性や定着率についてもアウトカムとしてとらえ貨幣化の対象とする。

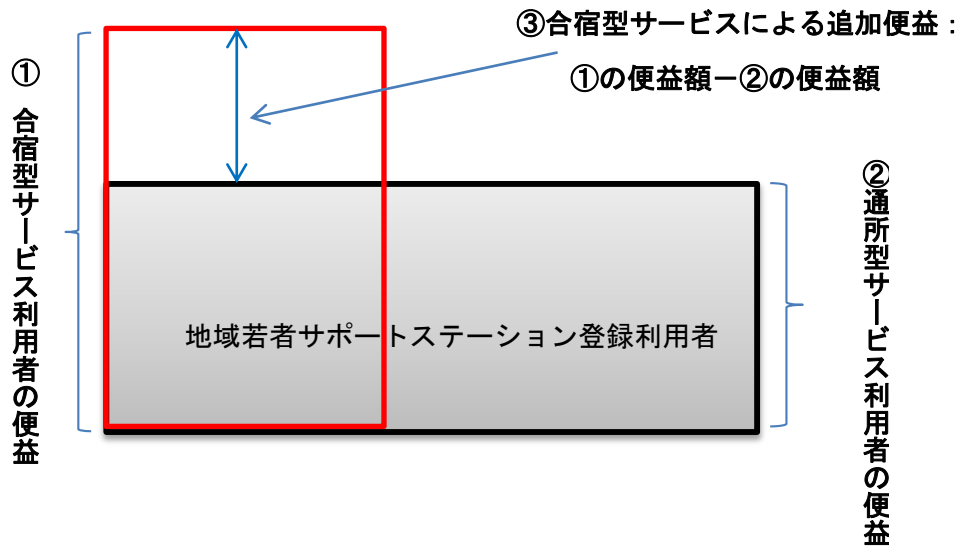
SROI は費用便益分析の一種であり、費用のみならず便益も貨幣化し、総便益を総費用で除すことにより社会的投資収益率（SROI）を算出する。創出された社会的便益を貨幣化することにより、これまで顕在化されなかった社会的価値が貨幣という価値尺度で換算され、よりわかりやすいかたちで可視化されることになる。SROI の算出により、社会的プログラムの有効性・効率性が数値化され可視化され、実施団体や利用者、資金提供者や政策立案者に対して意思決定に有益な情報が提供されることになる。

## （3）評価枠組み

K2の特色的プログラムの1つである「よこはま型合宿型プログラム」の効果に焦点を当て、厚労省からの委託を受けK2が運営する域若者サポートステーション（以下、サポステ）の登録者の進路決定者のうち、①合宿型プログラムの利用者と、②通所型サービス利用者との間で成果（アウトカム）の比較を行い、合宿型プログラムの社会的インパクトを計測する。すなわち、「合宿型サービスを利用したグループ（with）」と、「同サービスを利用しなかったグループ（without）」との間でのアウトカムの差異（差分）に注目し、サービス利用による追加的便益を貨幣化して可視化するものである。

本推計では、同じサポステ利用のなかでも、アウトカムや進路決定後（就労後）の効果の持続性、定着率という点で、合宿プログラム利用者の方が、合宿型プログラムを利用しない利用者よりも、高いアウトカム（便益）を獲得するという研究仮説をとっている。図表1中の③が、合宿型利用者の便益（①）と通所型利用者の便益（②）の差分（追加的便益）を示している。SROI で算出対象とするのは、この③の追加的便益、すなわち、通所型サービスに加え、合宿型サービスを利用することによって追加的に生じた便益である。

図表 1：研究仮説

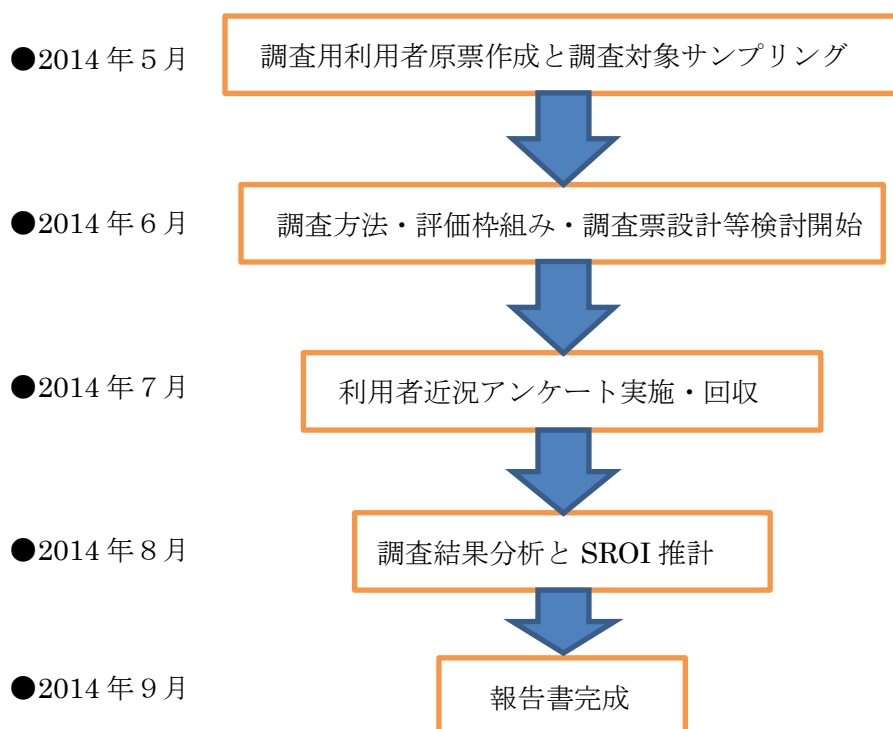


#### (4) 研究方法

本 SROI 推計の為の調査研究実施期間（報告書作成期間も含む）は、2014年5月1日から2014年9月末である。アンケート調査等データの収集は、2014年6月から7時にかけて実施した（図表2）。

本調査対象となる母集団は、図表3に示した通り、2010年6月から2014年3月までの就労決定者（K2運営のサポステ登録者で進路決定した者、但し、進学、職業訓練を除く）のうち、K2が独自に2014年5月末時点で属性・支援内容・進路決定状況等のデータを把握したデータ集計表（以下、「原票」）に記載されている205名である。さらに205名のうち、後述する「困難度」に関するデータが無効の9名を除く196名のデータを SROI 分析の対象と位置づけた。

図表 2：調査実施フロー



図表 3：調査対象となる母集団（原票）

調査対象（原票に記載がある者）	人数	有効回答数 *困難度データ無効を除く
サポステ登録者中の就労決定者 (2010年6月～2014年3月)	205人 (A+B)	196人 (A+B)
就労決定者のうち、 【A】合宿型利用者	71人	69人
就労決定者のうち、 【B】通所型利用者	134人	127人

この原票データに記載されている就労決定者を対象に、さらに2014年7月11日から7月23日にかけて「利用者 近況アンケート」（調査票は参考資料編参照）をK2事務局の協力のもとに実施した。調査方法は対面でのヒアリング（主に合宿型）、電話による聞き取り（主に通所型）による。回収状況は図表4の通りである。

利用者近況アンケートの調査結果の概要は参考資料編を参照されたい。

図表 4：近況アンケート回収状況

利用者区分	回収数
合宿型利用者	61
通所型利用者	45
計	106

※通所型のうち3名については、アンケートでは「通い」の分類に入っていたが、原票リストより合宿型の経験有にチェックが入っていたため、「合宿型」の分類に移動（図表は修正済みの数字）

合宿型利用者と通所型利用者とのアウトカムの差異を比較する際、単に「出口」である就労決定にのみ注目すると、困難度の低い者を多く含むグループが優位になりがちである。そこで本調査では、困難度が同程度の者を困難度の高い順から「高」「中」「低」の3グループにグループ化し、同程度のグループ間で比較を行うという方法をとった。

困難度の点数化は、K2が独自の指標で作成した困難度換算表により行った。困難度の換算は、精神的な側面、就労面、経済面など、多面的に評価できるよう、「発達障害」「メンタル・精神」「知的障害手帳の有無」「経済状況」「直近無業期間」等の指標を設け、それぞれの指標について困難度に応じて「0, 1, 2, 3」というスコアを選択し、合算する方法で行われた。

図表5-1, 5-2が、困難度点数別の就労等（一部、福祉的就労、中間就労を含む）の決定者の分布を示したものである。この分布図で明らかなように、通所型利用者が困難度の低いレベルに就労決定者が多く集中するのに対して、合宿型利用者の場合は、困難度が高レベルのところにおいて一定数の就労決定者が分布する点である。

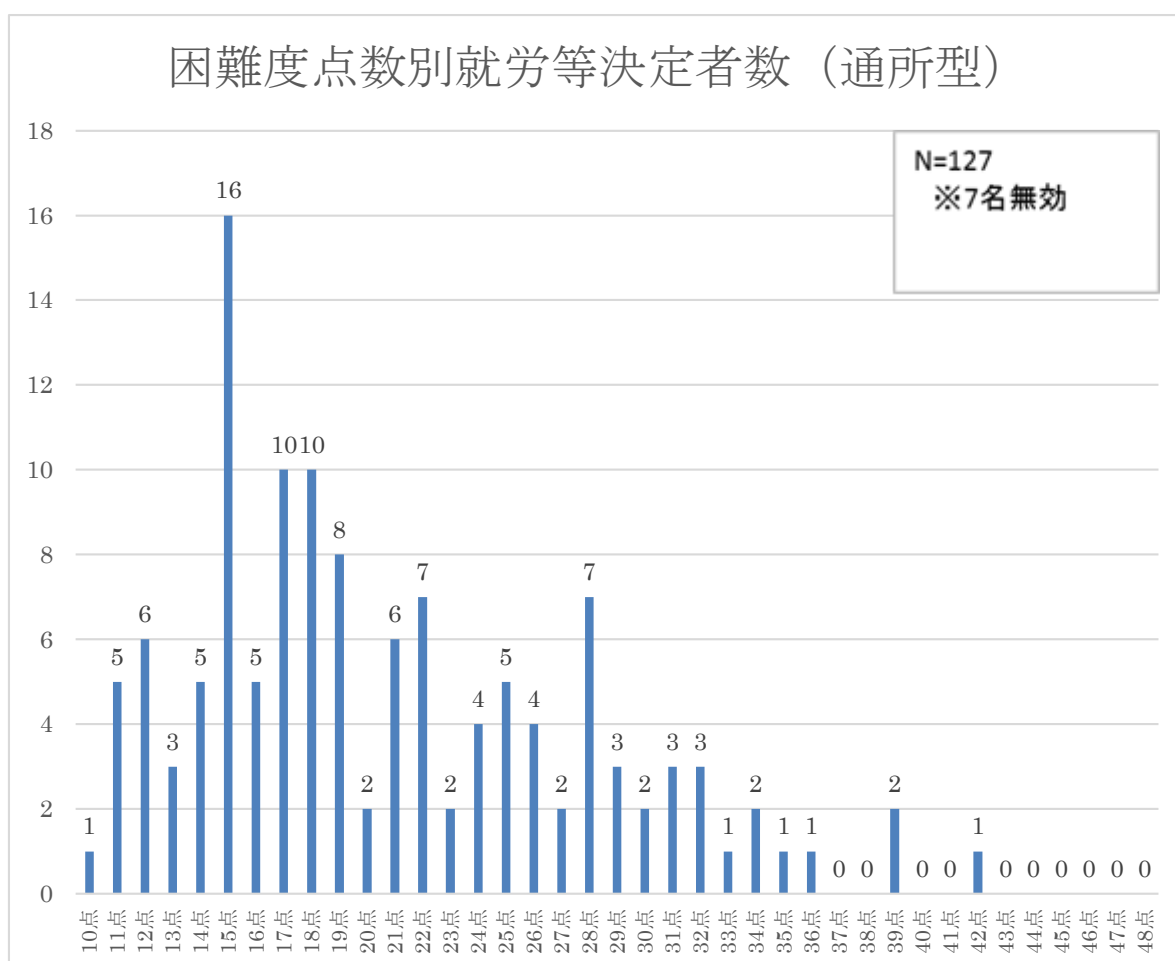
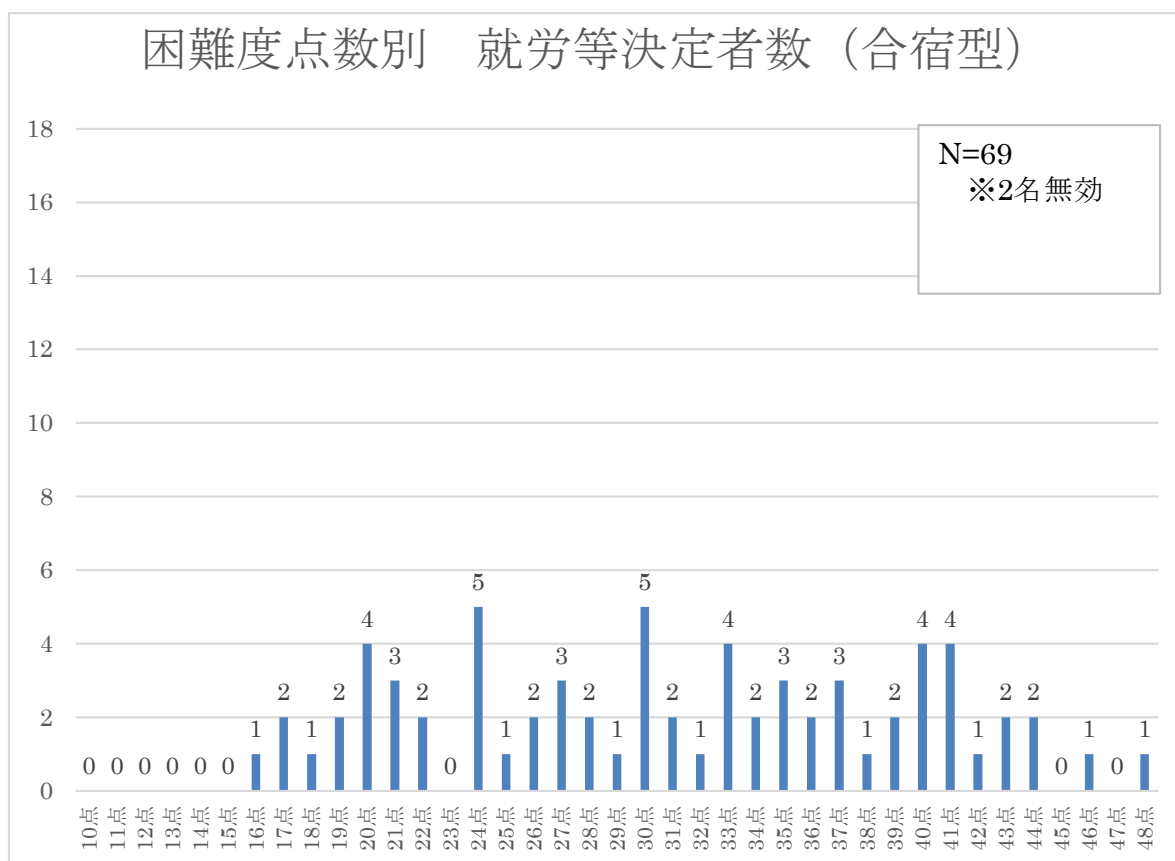
この調査結果を踏まえ、本評価では、困難度を3つのレベルに区分し、困難度20点以下を「低度困難者」、21点以上34点以下を「中度困難者」、35点以上を「高度困難者」とした。それぞれのレベルで、合宿型と通所型の就労決定者の分布状況を比較すると、低度困難者では、両者の差異はそれほど大きくないことから、「死荷重」を50%に設定した。これは合宿型利用者がもし合宿型サービスを利用しなくても（代わりに通所型を利用しても）、就労決定に至ったであろう確率である。死荷重とは、当該プロジェクトがなかったとしても生じるアウトカムのことを意味する。「中度困難者」については、両者の就労決定者の分布状況を踏まえ、死荷重を20%に設定した。これは同じく合宿型利用者が合宿型サービスを利用しなくても（代わりに通所型を利用しても）、20%程度は就労決定できたであろうという推計である。「高度困難者」については、通所型利用者に就労決定者がほとんど存在しないことから、死荷重を0%に設定した。この死荷重の数値を用いて、後述するようなSROI分析を行った。

図表 5-1 : 困難度点数別就労等決定者数

2010～2013年度 困難度点数別 就労等決定者数					
－原票データより抽出（K2提供「困難度点数換算表」にて計算）－					
<合宿型>			<通所型>		
困難度点数			困難度点数		
点数	人数	備考	点数	人数	備考
10点	0		10点	1	
11点	0		11点	5	
12点	0		12点	6	※1名無効を除く
13点	0		13点	3	
14点	0		14点	5	※1名無効を除く
15点	0		15点	16	
16点	1		16点	5	
17点	2		17点	10	
18点	1		18点	10	
19点	2		19点	8	
20点	4		20点	2	※1名無効を除く
21点	3		21点	6	
22点	2		22点	7	
23点	0		23点	2	
24点	5		24点	4	
25点	1		25点	5	
26点	2		26点	4	※1名無効を除く
27点	3		27点	2	
28点	2		28点	7	
29点	1		29点	3	
30点	5		30点	2	※1名無効を除く
31点	2		31点	3	
32点	1		32点	3	
33点	4		33点	1	
34点	2		34点	2	
35点	3		35点	1	
36点	2		36点	1	
37点	3		37点	0	
38点	1		38点	0	
39点	2		39点	2	
40点	4	※2名無効を除く	40点	0	
41点	4		41点	0	
42点	1		42点	1	
43点	2		43点	0	
44点	2		44点	0	
45点	0		45点	0	
46点	1		46点	0	
47点	0		47点	0	
48点	1		48点	0	
69 ※計2名無効			127 ※計5名無効		
			※2名無効		



図表 5-2 : 困難度点数別 就労決定者数分布 (「合宿型」「通所型」)



## 2. SROI（社会的投資収益率）分析による費用便益分析の概要（SROI 概説）

本評価では、SROI を用いて社会的価値を計測したが、SROI による計測結果の説明に先立ち、SROI という評価手法の特徴、基本的な計測プロセスについて概説したい。

### 2.1 SROI アプローチの特徴

SROI の方法論開発の特徴は、費用便益分析(CBA: cost-benefit analysis)を社会的企業等のサード・セクターがその成果評価に活用しやすいように、応用し発展させた点にある。SROI は経済的な評価のテクニックを使うという意味では CBA と非常によく似ており、CBA の手法が基礎となっている。SROI は独自の評価理論を開発したというよりも、むしろ CBA において発展してきた理論や技法に多くを依存している。

SROI の主要な特徴の 1 つは、評価プロセスにおいてステークホルダー・アプローチが重要な位置を占めている点にある。これは CBA との主要な相違点であるが、両者の違いは評価方法の本質な部分にあるのではなく、むしろ「アプローチ」の違いにあるのである。SROI においては、評価プロセスにおけるステークホルダーの参加を基本に、「変化」の価値化(「変化」の価値づけ)と、社会的価値の貨幣化(貨幣価値への換算)が実践される。例えば、SROI では、まず「期待されるアウトカム(成果)」としての課題群の枠組みが設定されるが、これらのアウトカムの定義において、ステークホルダーの参加を可能にする十分な柔軟性を有している。

SROI のもう 1 つの主要な特徴はマネジメント・ツールとしての活用可能性にも見出すことができる。SROI によって導き出された成果評価によって、プロジェクト実施組織にとっては事業・経営改善のための学習が可能となるし、インパクトを強化する方向での資源管理が可能となる。一方で、CBA のアプローチにおいては、もっぱらコンサルタントなどの外部機関によって評価が行われる傾向があり、評価結果が組織にフィードバックされ、経営改善に活用されるプロセスが重視されているわけではない。すなわち、SROI の方がマネジメント・ツールとして組織に「内部化」される傾向が強い。

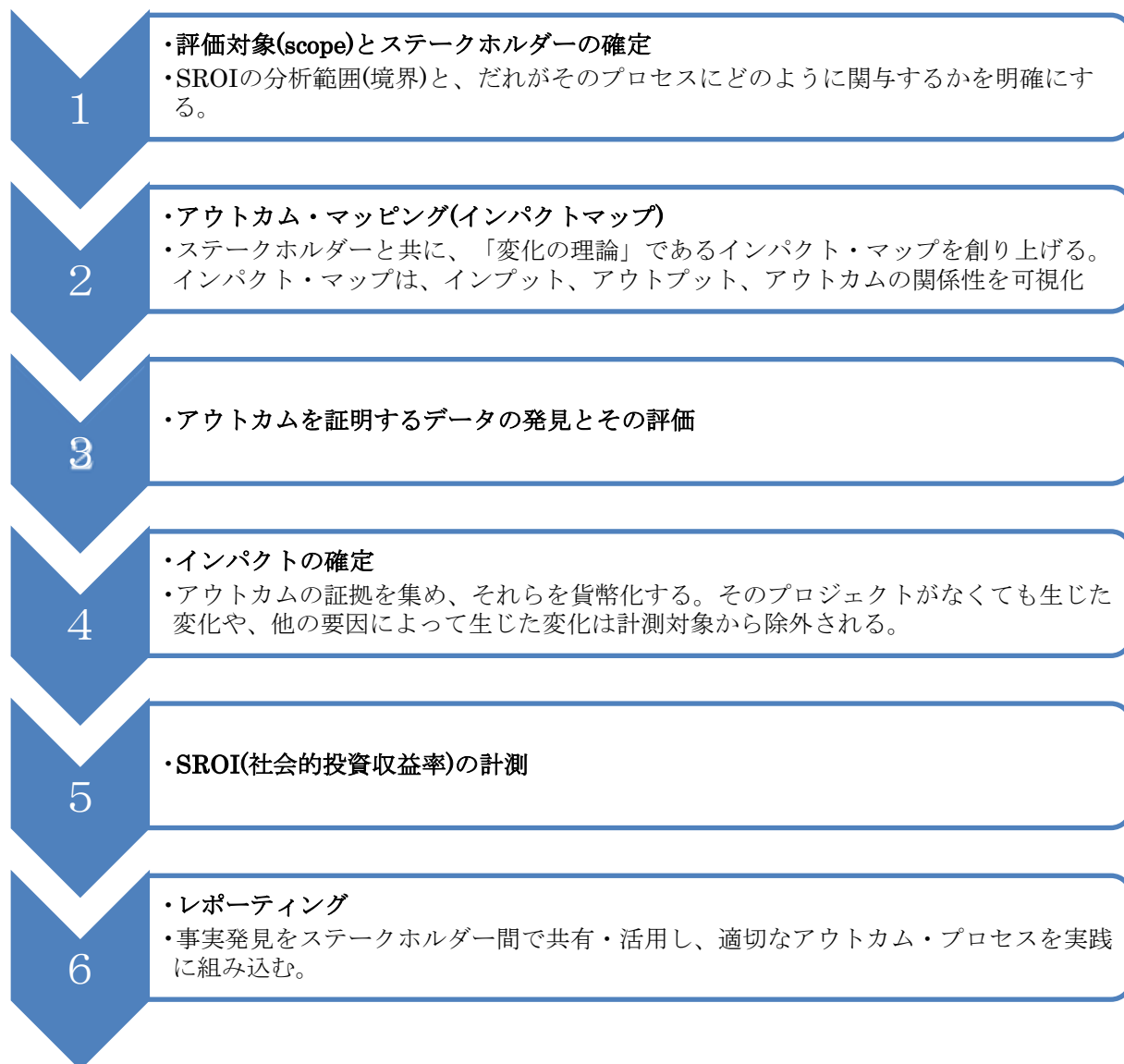
### 2.2 「with-without」の比較

たとえ SROI 分析が実施可能と判断されても、例えば、就労支援プログラムのような介入を受けられるグループ(ターゲット・グループ)と受けられないグループ(コントロール・グループ)との比較可能性が問題となる。すなわち、SROI のような費用便益分析の場合、単に対象者がサービス(支援)を受ける前と受けた後の変化といった、「before-after」のみを比較するのではない。そのサービスを受けられなかったグループと受けられたグループとの間のアウトカムの差異、すなわち「with-without」が比較される。

## 2.3 SROIの算出プロセス

SROIによる社会的投資収益率の算出プロセスは、図表6の6つのステージで構成される。

図表6：SROI分析の6つのステージ



出所：SROI network(2012) *A Guide to Social Return on Investment*. pp.10-11 を翻訳(加筆修正)

まず、【第1ステージ】で、評価対象の特定が行われる。評価対象となる社会的プロジェクト、その社会的プロジェクトの受益者であるターゲット・グループ、そして評価対象となる期間などの特定である。

【第2ステージ】では、アウトカムのマッピング、いわゆるインパクトマップが作成される。インパクトマップとは、社会的プロジェクト（活動）によって生じた社会的価値の創出プロセスを可視化した表である。投入した資源がいかに活用され、最終的に各ステークホルダー（サービス利用者、その家族、政府など）のアウトカム（便益）に結び付いていくのかを「インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒アウトカム⇒インパクト」のロジックモデルで可視化する。ロジックモデルとは、政策や社会的プロジェク

トのための利用可能な資源・予算、活動、期待される成果や変化の相関関係を図式化したものであり、SROIに限らず、政策評価の核をなすものである。

インパクトマップの作成において、特に重要なのは、その社会的プロジェクトにおいて、何がインプットなのか、アウトプットなのか、アウトカムなのかを具体的に定義することである。インプット等の一般的な定義は図表7の通りであるが、これらに該当するものをその社会的プロジェクトの中から特定し、記述しなければならない。

**図表7：ロジックモデルの主要概念**

インプット	プロジェクト運営に必要な資源  【例】時間、資金、スタッフ、施設等のアセットなど
アウトプット	プロジェクト実施から生じる直接的結果で、定量化可能なもの  【例】研修の参加者数、参加時間
アウトカム	活動のアウトプットによって完全あるいは部分的に生じる意図された、あるいは意図せざる変化
インパクト	純粋にプロジェクトによって生じたアウトカム（プロジェクトがなくても生じたであろうアウトカムを除外）

またアウトカムの成果量を測るためのアウトカム指標、成果量を貨幣換算するための金銭的代理指標 (financial proxy) の設定もきわめて重要である。成果量を測るためのアウトカム指標の設定ができて、そのアウトカムについて金銭的代理指標の設定ができなければ、貨幣換算はできない。金銭的代理指標とは、成果量を正確に貨幣化して計測することが不可能な場合に設定する代替的な指標である。例えば、精神的な不安の減少というアウトカムは、改善がみられた人数というアウトカム指標を設定できるが、その変化によって直接に、貨幣化可能な経済的価値が生み出されるわけではないので、代わりに指標を設定しなければならない。それが金銭的代理指標である。例えば、自信の向上の場合は、そうした変化をもたらす同種のサービスとそのサービスにかかる価格（費用）を市場や公的サービス（公的であるが競争性のある疑似市場サービス）などのなかで見出す必要があるが、臨床心理士が認知行動療法を用いて提供するカウンセリングサービスなどが、それに該当するであろう。その場合は、平均的なカウンセリング費用が金銭的代理指標となる。

図表8に、金銭的代理指標を設定する際の貨幣換算アプローチを示したが、本SROI推計では、基本的に、就労決定というアウトカムについてはインカム・アプローチを。自信の向上のような中間的アウトカムについては、マーケットアプローチを採用した。

一方、初期の段階では、これらの指標の設定は暫定的なものとならざるをえない。指標自体の適切さ、信頼性についての検証に時間を要するし、それらの指標で成果を計測するための基礎となるデータが果たして収集可能かの判断が必要となるからである。

図表 8：貨幣換算アプローチ

アプローチ	説明
インカム（所得）アプローチ	実際の貨幣所得を伴って付加される経済的価値（就労による所得増加など）の推計
コストアプローチ	かかる費用からの価値推計
マーケットアプローチ	同様の価値をもつ類似市場財を利用した価格・費用から価値推計
財政効果アプローチ	行政費用の削減・行政収入の増加から価値推計

【第3ステージ】は、アウトカムを証明するデータの発見である。SROI 推計のために実施されたアンケートやヒアリング調査のデータ、過去の先行研究のデータや政府統計、調査レポートなど、アウトカムの実証に有用なデータが収集され、その有用性の評価がなされる。

【第4ステージ】は、インパクトの確定である。SROI で計測の対象となるインパクトはあくまでもそのプログラムの実施によって生じたアウトカム(成果)を意味する。したがって、最終的なインパクトの算出に当たっては、当該プロジェクトがなくても生じたアウトカム(「死荷重」)や、当該プロジェクトによるアウトカムが単にネガティブなインパクトして他の地域などに置き換えられたりする効果(置換効果)、当該プロジェクト以外にアウトカムに影響を与えた要因(寄与率)などが考慮され、控除されなければならない(図表 9)。

図表 9：インパクト算出に関わる鍵概念

「死荷重」 (deadweight)	当該プロジェクトがなかったとしても生じるアウトカム ・例：長期失業者の訓練プログラムの場合、同地域で長期失業者が失業保険受給から脱する率
「置換効果」 (displacement)	当該プロジェクトの参加者のアウトカムがプロジェクト外の者のアウトカムを置き換える、あるいは代替する割合 ・例：ある区の街燈設置プログラムによって同地区の犯罪率が減少したが、他方、同期間に隣接区で犯罪率が上昇
「寄与率・帰属性」 (attribution)	成果の総便益に対して当該プロジェクトが寄与する割合であり、他の組織や要因が影響する割合を控除して設定したもの
「ドロップ・オフ」 (drop-off)	アウトカムが時間を経て低減する割合

【第5ステージ】で、第4ステージで計測されたインパクトの価値額をもとに、最終的に、SROI（社会的投資収益率）が算出される。さらに、SROIでは、社会的便益・費用等が割引率を用いて現在価値(present value)(現在の価値に修正された貨幣価値)に修正され、プロジェクトの SROI(社会的投資収益率)が以下の数式で算出される。

$$\text{SROI(社会的投資収益率)} = \frac{\text{総便益}}{\text{総費用}}$$

【第6ステージ】は、SROIの推計結果のレポートである。SROI推計結果の情報、得られた事実発見や課題についてステークホルダー間での共有がなされるプロセスである。SROI（社会的投資収益率）値といった定量的情報の開示だけではなく、変化を規定した要因の説明も含め、定性的データも用いながら、総合的な分析結果が示される。

### 3. 本評価における SROI 分析

#### (1) 評価調査の目的

本評価では、K2 グループの中核事業であるよこはま型合宿プログラムのインパクトを SROI アプローチから計測し評価した。若年無業者支援では、進路決定率や一般就労への移行率といったアウトカムに焦点が向けられがちであるが、本評価では、プログラムのアウトカムを就労のような市場的価値指標で比較的容易に貨幣化する顕在的アウトカムに限定せず、意識・行動変化を含む潜在的アウトカム(中間的アウトカム)、及び直接的受益である若者(利用者)以外のステークホルダーのアウトカムについても可能な限り、貨幣化した。

#### (2) 評価対象及び調査方法

評価対象は、合宿型の就労支援プログラムであり、当該プログラムで就労する若者の意識・行動変化である。併せて、主な受益者である若者(一次的ステークホルダー)以外にも、図表 10 で示した二次的ステークホルダーのインプットやアウトカムについても可能な限り、アウトカム指標と金銭的代理指を設定し、SROI の分析対象とした。

SROI の評価対象は、2010 年度から 2013 年度の合宿型利用者 181 人（2010 年度：61 人、2011 年度：37 人、2012 年度：55 人、2013 年度：28 人）である。

図表 10：評価対象とするステークホルダー

一次的ステークホルダー	合宿型プログラムを利用する若者(対象者) * プログラム修了後の就労決定者
二次的ステークホルダー	家族、横浜市・政府、公的保険制度

所得の増加がアウトカム指標になりうる就労決定関連のアウトカムについては、便益の推計は比較的容易であった。しかし、自信の向上や精神的不安の減少など、金銭的な収入・支出が顕在化せず市場価値では測りにくい変化については、金銭的代理指標の設定が困難であった。イギリスの SROI のケーススタディなども参照しつつ、就労以外のいくつかのアウトカムについては、金銭的代理指標を設定し、便益の貨幣化を可能とした。図表 11-1～11-3 では利用者（無業の若者）の主要な便益（アウトカム）項目、アウトカム指標、金銭的代理指標を、図表 12 では、利用者以外のステークホルダー（家族、政府）の主要な便益項目等示した。

図表 11-1 は、合宿型利用者（無業の若者）の就労等決定（一般就労[正規・非正規]及び福祉就労・中間就労）を推計するためのアウトカムの指標、金銭的代理指標を示したものである。前述したように、困難度換算をもとに、グループを困難度別に「高度」「中度」「低度」の 3 レベルに分類した上で、合宿型と通称型の就労決定者の 3 レベルでの分布状況を確認し、両者の比較をもとに死荷重を設定した。高度困

難者の死荷重は0%に設定したが、この0%とは、「高度困難者であるため、合宿型でなければ就労できなかったであろう」ということを示している。中度困難者の死荷重については20%に設定したが、これは「中度困難者の場合、一定程度は通所型支援だけでも就労決定できたであろう」ことを意味している。低度困難者については、「低度困難者の場合、通所型支援だけでもかなりの程度、就労決定できたであろう」ことを意味している。

例えば、死荷重を20%に設定した中度困難グループの「正規」雇用と「非正規」雇用の就労決定の最終的なインパクト（社会的価値）は以下のような計算式で算出される。正規・非正規の所得は、賃金構造基本統計調査のデータをもとに推計した（正規は高卒初任給235,100円）。帰属率の93.2%は、アンケートにより算出したものである。

#### [計算例]

##### ・正規

可処分所得 196,602 円【235,100－（源泉徴収税 5,990＋健康保険料 11,964＋厚生年金保険料 20,544）】  
×12 カ月×4 人（実績）×[1－死荷重（0.2）]×帰属率（0.932）

##### ・非正規

可処分所得 157,924 円【188,000－（源泉徴収税 4,340＋健康保険料 9,472＋厚生年金保険料 16,264）】  
×12 カ月×21 人（実績）×[1－死荷重（0.2）]×帰属率（0.932）

アウトカムの金銭化が通常難しい中間的アウトカムの金銭的代理指標については、「障害受容度の深化」については、精神科ソーシャルワーク等（精神保健福祉士）のサービスにかかる費用を代理指標とした。生活リズムの向上については、臨床心理士等が認知行動療法等にもとづいてサービスを提供した際の家運セリング費用を代理指標とした。職業選択機会の拡大は、キャリアコンサルティング費用を金銭的代理指標とした。



図表 11-1 : 主要便益項目 (利用者=若者)

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム				金銭的代理指標及び計算式	死荷重	帰属率
		成果説明	就労決定	アウトカム指標	成果量			
合宿型プログラム参加者(無業の若者)	合宿型参加者 参加者数 181 人 [各年度内訳] ・2010年: 61人 ・2011年: 37人 ・2012年: 55人 ・2013年度: 28人	就労達成による無業状態の解消	就労決定【高度困難者】	就労達成による所得の増加【高度困難者: 35点以上】 就労決定者数(困難度35点以上) × 金銭的代理指標	就労決定者数 26人 正規: 2人 非正規: 12人 福祉事務所: 8人 中間就労: 4人	可処分所得 × 12ヶ月 × 就労決定者数	0%	93.2%
		就労達成による無業状態の解消	就労決定【中度困難者】	就労達成による所得の増加【中度困難者: 21点以上34点以下】 就労決定者数(困難度21点以上34点以下) × 金銭的代理指標	就労決定者数(中度困難者) 33人 正規: 4人 非正規: 21人 福祉事業所: 3人 中間就労: 5人	同上	20%	同上
		就労達成による無業状態の解消	就労決定【低度困難者】	就労達成による所得の増加【低度困難者: 20点以下】 就労決定者数(困難度20点以下) × 金銭的代理指標	就労決定者数(低度困難者) 10人 正規: 3人 非正規: 7人 福祉事務所: 0人 中間就労: 0人	同上	50%	同上

図表 11-2 : 主要便益項目 (利用者=若者)

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム			金銭的代理指標及び計算式	死荷重	帰属率
		成果説明	アウトカム指標	成果量			
合宿型プログラム参加者 (無業の若者)	合宿型参加者 参加者数 181 人 [各年度内訳] ・2010年: 61人 ・2011年: 37人 ・2012年: 55人 ・2013年度: 28人	就労継続度の向上	<u>就労決定者数に占める</u> <u>1年間以上の就労継続</u> <u>者数の割合の増加</u> *「1年間以上の就労継続者数」とは、 ①2012年6月以前までの進路決定者で、 ②①のうち現在の状況が「無業」を除き、 ③就業していた期間が1年以上の者の人数	(1)就労決定者数 69人 (2)就労継続者の割合 ①合宿型 90.5% ②通所型 81.8% ①の②に対する増分 (①-②) 8.7%	合宿型就労決定者数 (69人) ×増分 ×非正規雇用可処分所得	0%	93.2%
		障害受容度の深化	障害受容度の深化者数	合宿型の深化度割合 86.7% -通所型の深化度割合 50.0% =差異・増分 (36.7%)	精神科訪問看護・指導料(10回: 64,500円) (2)合宿型参加者数 181人 ×増分 ×金銭代理指標		

図表 11-3 : 主要便益項目 (利用者=若者)

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム			金銭的代理指標及び計算式	死荷重	帰属率
		成果説明	アウトカム指標	成果量			
合宿型プログラム参加者(無業の若者)	合宿型参加者参加者数 181 人 [各年度内訳] ・2010年: 61人 ・2011年: 37人 ・2012年: 55人 ・2013年度: 28人	職業選択機会の拡大	職業選択機会の拡大者数	19人 *合宿参加者 181人×増分 10.3% (合宿型 66.1% 一通所型 55.8%)	キャリアコンサルティング費用 50,000円(10回) ×実数 19人	0%	93.2%
		生活リズムの改善	生活の規則正しさ向上者数	6人 *合宿参加者 181人×増分 3.4% (合宿型 86.7% 一通所型 83.3%)	カウンセリング費用 4,539.6円(1回) ×認知行動療法面接回数 10回 ×実数 6人	同上	同上
		社会関係の改善/ 社会的孤立の解消	社交(友人との外出・外食等)の機会の増加	18人 *合宿参加者 181人×増分 9.8% (合宿型 51.7% 一通所型 41.9%)	喫茶代金(年額)(5,864円) ×合宿型による改善者増加人数(18人)	同上	同上

図表 12 : 主要便益項目 (家族、政府)

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム			金銭的代理指標及び計算式	死荷重	帰属率
		成果説明	アウトカム指標	成果量			
家族		家族の障害受容	障害受容をした家族の人数	70 人 合宿参加者 181 人 ×増分 38.6% (合宿型 63.6% 一通所型 25.0%)	精神科訪問看護・指導料 (64,500 円) ×障害受容をした家族の人数 (70 人)	0 %	93.2 %
政府・横浜市		参加者の就労決定により、所得税収入の増加	所得税の増加	就労決定者数 正規 9,非正規 40  ・高度困難者 正規 2,非正規 12 ・中度困難者 正規 4,非正規 21 ・低度困難者 正規 3, 非正規 7	・雇用形態別 1人当りの月額所得額より、年間所得税額を推計 ・雇用形態別年間所得税額 ×雇用形態別就労決定者数	同上	同上
		参加者の就労決定により、社会保険料収入の増加	社会保険料収入の増加	同上	・雇用形態別 1人当りの月額社会保険料より、年間保険料額を推計 ・雇用形態別年間社会保険料 ×雇用形態別就労決定者数	同上	同上

## 4. SROI の計測結果：インパクトマップによる可視化

各便益（アウトカム）及び各ステークホルダーの社会的価値の算出プロセスについては、以下のインパクトマップの分割版（図表 13・図表 14）と全体版（図表 15）を参照されたい。

図表 13-1：インパクトマップの分割版「合宿型プログラム参加者（無業の若者）」

“就労達成による無業状態の解消” “就労継続度の向上”

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム		貨幣換算			死荷重	帰属性(寄与率)	アウトカムの社会的価値(インパクト)【円】
		成果説明	アウトカム指標	金銭的代理指標及び計算式(貨幣化)	成果量	対象となる主体数			
合宿型プログラム参加者（無業の若者）	合宿型プログラムの参加 参加者数181人 ・各年度内訳 ・2010年：61人 ・2011年：37人 ・2012年：55人 (長期9人含む) ・2013年度：28人 (長期7人含む)	就労決定【高度困難者】	就労達成による所得の増加 【高度困難者：35点以上】 就労決定者数(困難度35点以上) × 金銭的代理指標	【正規】：可処分所得196,602円【235,100 - (源泉徴収税5990 + 健康保険料11,964 + 厚生年金保険料20,544) × 12カ月 × 2人 【非正規】：可処分所得157,924円【188,000 - (源泉徴収税4,340 + 健康保険料9,472 + 厚生年金保険料16,264) × 12カ月 × 12人 * 【正規】【非正規】情報源：賃金構造基本統計調査 【福祉事業所】：17000円/月 × 12カ月 × 8人 【中間就労】：40000円/月 × 12カ月 × 4人  * 困難度の高度・中度・低度別に就労決定者数を算出し、金銭的代理指標(正規・非正規・福祉事業所・中間就労)により所得を推計する。 就労項目について、合宿型と通所で困難度別就労率が算出できないため、他の項目のように差異・増分を推計できない。 そこで、就労項目では、コントロール群を設定せず死荷重によりサポステ通所で就労できたと考えられる就労分を控除する。 死荷重は、合宿型で困難度の高い若者を訓練させ就労達成している効果を貨幣化するため、困難度を(高度・中度・低度)の3分類にし、それぞれに死荷重を設定して控除する。	就労決定者数(実績：高度困難者) 26人 正規：2人 非正規：12人 福祉事業所：8人 中間就労：4人	就労決定者数 26人  未回答：1人* * 就労形態未回答は「非正規」とみなす (以下同様)	0% =高度困難者であるため、合宿型でなければ就労できなかったと考えられる分	93.2%	28,902,722
		就労決定【中度困難者】	就労達成による所得の増加 【中度困難者：21点以上34点以下】 就労決定者数(困難度20点~34点) × 金銭的代理指標	同上 【正規】：可処分所得196,602円【235,100 - (源泉徴収税5,990 + 健康保険料11,964 + 厚生年金保険料20,544)】 × 12カ月 × 4人 【非正規】：可処分所得157,924円【188,000 - (源泉徴収税4,340 + 健康保険料9,472 + 厚生年金保険料16,264)】 × 12カ月 × 21人* 【福祉事業所】：[17,000円/月 × 12カ月 × 2人(B)] + [神奈川県最低賃金*868円 × 6h × 5日 × 4週 × 12ヶ月 × 1人(A)] = 408,000円 + 1,249,920円 【中間就労】：40,000円/月 × 12カ月 × 5人  *神奈川県ホームページhttp://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f160038/地域別最低賃金/平成25年10月20日改正	就労決定者数(実績：中度困難者) 33人 正規：4人 非正規：21人 福祉事業所：3人 中間就労：5人	就労決定者数 33人  未回答：4人*	20% =中度困難者の場合、一定程度は通所型支援だけでも就労決定できると考えられる	93.2%	39,734,265
		就労決定【低度困難者】	就労達成による所得の増加 【低度困難者：20点以下】 就労決定者数(困難度20点以下) × 金銭的代理指標	同上 【正規】：可処分所得196,602円【235,100 - (源泉徴収税5,990 + 健康保険料11,964 + 厚生年金保険料20,544)】 × 12カ月 × 3人 【非正規】：可処分所得157,924円【188,000 - (源泉徴収税4,340 + 健康保険料9,472 + 厚生年金保険料16,264)】 × 12カ月 × 7人* 【福祉事業所】：0人 【中間就労】：0人	就労決定者数(実績：低度困難者) 10人 正規：3人 非正規：7人 福祉事業所：0 中間就労別：0	就労決定者数 10人  未回答：4人*	50% =低度困難者の場合、通所型支援だけでなくかなりの程度、就労決定できると考えられる	93.2%	9,479,972
		就労継続度の向上	就労決定者数に占める1年間以上の就労継続者数の割合の増加 *「1年間以上の就労継続者数」とは、①2012年6月以前までの進路決定者で、②①のうち現在の状況が「無業」を除き、③就業していた期間が1年以上の者の人数。	非正規雇用可処分所得(年額) × 就労継続者実数(アンケート就業継続者) * 原票と近況アンケート(⑤)で、合宿型と通所型との間での「現在も就業中で、1年以上就業を継続している者の回答者に占める割合」の差分・増分を確認(8.7%=合宿：90.5%-81.8%) * 計算式 合宿型就労決定者数(69人) × 増分(8.7%) = 6.0人 = 6人 × 非正規雇用可処分所得(年額1,895,088円)	就労決定者数(実績) 69人	-	93.2%	10,597,332	

図表 13-2：インパクトマップの分割版「合宿型プログラム参加者（無業の若者）」

“障害受容による障害基礎年金申請” “障害受容度の深化”

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム		貨幣換算			死荷重	帰属性 (寄与率)	アウトカムの社会的価値 (インパクト)【円】
		成果説明	アウトカム指標	金銭的代理指標及び計算式 (貨幣化)	成果量	対象となる主体数			
合宿型プログラム参加者 (無業の若者)	合宿型プログラムの参加 参加者数181人 [各年度内訳] ・2010年：61人 ・2011年：37人 ・2012年：55人 (長期9人含む) ・2013年度：28人 (長期7人含む)	障害受容による障害基礎年金申請	障害基礎年金受給による所得の増加	障害基礎年金申請者数 19人(合宿型)×障害基礎年金(2級)(年額)772,800円	障害年金申請者数 (実績) 19人		-	93.2%	13,684,742
		障害受容度の深化	障害受容度の深化者数	精神科訪問看護・指導料 5,750円×3日+6,750×7日(10日分=64,500円) *利用者近況アンケート①の関連項目[1]来所時に発達障害の診断あり 3. 障害受容が深まった *計算式 合宿型の深化度割合86.7%-通所型の深化度割合50.0% =差異・増分(36.7%) 合宿型参加者数181人×差異・増分(36.7%) =合宿型プログラムによる障害受容度の深化者数66人 合宿型による障害受容度の深化者数(66人)×金銭代理指標(64,500円) =便益価値額4,257,000円		合宿参加者数 181人		100.0%	4,257,000

図表 13-3：インパクトマップの分割版「合宿型プログラム参加者（無業の若者）」

“働く自信の向上” “職業選択機会の拡大” “生活リズムの改善” “社会的関係の改善／社会的孤立の解消”

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム		貨幣換算		死荷重	帰属性(寄与率)	アウトカムの社会的価値(インパクト) [円]	
		成果説明	アウトカム指標	金銭的代理指標及び計算式(貨幣化)	成果量				対象となる主体数
合宿型プログラム参加者（無業の若者）	合宿型プログラムの参加 参加者数181人 [各年度内訳] ・2010年：61人 ・2011年：37人 ・2012年：55人 (長期9人含む) ・2013年度：28人 (長期7人含む)	働く自信の向上	自信向上者数	カウンセリング費用(1回) 4,539.6円×認知行動療法面接回数 10回×実数(アンケート改善者) *利用者近況アンケート④(4, 3のいずれかに○) *計算式 合宿型の改善割合76.3%－通所型の改善割合79.1% =差異・増分 (-2.8%) 合宿型参加者数181人×差異・増分 (-2.8%) =合宿型プログラムによる改善者増加人数*人 合宿型による改善者増加人数×金銭代理指標 =便益価値額*円  *改善割合が通所型と比較してわずかに「マイナス」となったため、増分の貨幣換算は無し(通所型より困難度の高い利用者が多いので、働く自信の向上度合いがやや低いのは想定内の結果ともいえる)		合宿参加者数 181人	-	93.2%	0
		職業選択機会の拡大	職業選択機会の拡大者数	キャリアコンサルティング費用 50,000円(10回)×実数(合宿型)(アンケート改善者) *利用者近況アンケート⑥(4, 3のいずれかに○) *計算式 合宿型の改善割合66.1%－通所型の改善割合55.8% =差異・増分 (10.3%) 合宿型参加者数181人×差異・増分 (10.3%) =合宿型プログラムによる改善者増加人数19人 合宿型による改善者増加人数(19人)×金銭代理指標(50,000円) =便益価値額950,000円		合宿参加者数 181人	-	93.2%	885,400
		生活リズムの改善	生活の規則正しさ向上者数	カウンセリング費用(1回) 4,539.6円×認知行動療法面接回数 10回×実数(アンケート改善者) *利用者近況アンケート⑨(4,3のいずれかに○) *計算式 合宿型の改善割合86.7%－通所型の改善割合83.3% =差異・増分 (3.4%) 合宿型参加者数181人×差異・増分 (3.4%) =合宿型プログラムによる改善者増加人数6人 合宿型による改善者増加人数(6人)×金銭代理指標(45,396円) =便益価値額272,376円		合宿参加者数 181人		93.2%	253,854
		社会的関係の改善／社会的孤立の解消	社交(友人との外出・外食等)の機会の増加	喫茶代金5,864円(年額)×該当者実数 31人(合宿型)(アンケート改善者) *利用者近況アンケート⑧(4, 3のいずれかに○) *H25年度総務省家計調査年報(家計収支編) *計算式 合宿型の改善割合51.7%－通所型の改善割合41.9% =差異・増分 (9.8%) 合宿型参加者数181人×差異・増分 (9.8%) =合宿型プログラムによる改善者増加人数18人 合宿型による改善者増加人数(18人)×金銭代理指標(5,864円) =便益価値額105,552円		合宿参加者数 181人	-	93.2%	98,374



図表 14：インパクトマップの分割版「家族」「政府・横浜市」

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム		貨幣換算			死荷重	帰属性 (寄与率)	アウトカムの社会的価値 (インパクト)【円】
		成果説明	アウトカム指標	金銭的代理指標及び計算式 (貨幣化)	成果量	対象となる主体数			
家族		家族の障害受容	障害受容をした家族の人数	精神科訪問看護・指導料 5,750円×3日+6,750×7日 (10日分=64,500円) 近況アンケート①の関連質問【5】家族の障害受容で、「3.障害受容が深まった」 *計算式 合宿型の深化度割合63.6%-通所型の深化度割合25.0% =増分 (38.6%) 合宿型参加者数181人×増分 (38.6%) =合宿型による障害受容をした家族の人数 (69.8人) 合宿型による障害受容をした家族の人数 (70人) ×金銭的代理指標 (64,500円) =便益価値額 4,515,000円		合宿参加者数 181人		100.0%	4,515,000
政府・横浜市		参加者の就労決定により、所得税収入の増加	所得税の増加	一般就労1人当りの月額所得額より、年間所得税額の推計 ①高度困難者： A.正規就労決定数2人×源泉税5,990円×12=143,760円 B.非正規就労決定数12人×源泉税4,340円×12=624,960円 ②中度困難者： A.正規就労決定数4人×源泉税5,990円×12=287,520円 B.非正規就労決定数21人×源泉税4,340円×12=1,093,680円 ③低度困難者： A.正規就労決定数3人×源泉税5,990円×12=215,640円 B.非正規就労決定数7人×源泉税4,340円×12=364,560円	就労決定者数 ①高度困難者 正規：2人 非正規：12人 ②中度困難者 正規：4人 非正規：21人 ③低度困難者 正規：3人 非正規：7人	就労決定者数 正規:9人 非正規:40人	0% 0% 20% 20% 50% 50%	93.2%	133,984 582,463 214,375 815,448 100,488 169,885 <b>計2,016,643</b>
		参加者の就労決定により、社会保険料収入の増加	社会保険料収入の増加	一般就労1人当りの月額社会保険料より、年間社会保険料額の推計 ①高度困難者： A.正規就労決定数2人×健康保険料・年金保険料32,508円×12=780,192円 B.非正規就労決定数12人×健康保険料・年金保険料25,736円×12=3,705,984円 ②中度困難者： A.正規就労決定数4人×健康保険料・年金保険料32,508円×12=1,560,384円 B.非正規就労決定数21人×健康保険料・年金保険料25,736円×12=6,485,472円 ③低度困難者： A.正規就労決定数3人×健康保険料・年金保険料32,508円×12=1,170,288円 B.非正規就労決定数7人×健康保険料・年金保険料25,736円×12=2,161,824円	同上	同上	0% 0% 20% 20% 50% 50%	93.2%	727,139 3,453,977 1,163,422 4,835,568 545,354 1,007,410 <b>計11,732,870</b>

図表 15: インパクトマップ全体図

ステークホルダー	アウトプット	アウトカム		貨幣換算				アウトカムの社会的価値【円】	死荷重	帰属性(寄与率)	アウトカムの社会的価値(インパクト)【円】
		成果説明	アウトカム指標	金銭的代理指標及び計算式(貨幣化)	成果量	対象となる主体数	推計成果量				
合宿型プログラム参加者(無業の若者)	就労達成による無業状態の解消	就労決定【高度困難者】	就労達成による所得の増加【高度困難者: 35点以上】 ×金銭的代理指標	【正規】: 可処分所得196,602円 [235,100 - (源泉徴収税5,990 + 健康保険料11,964 + 厚生年金保険料20,544) × 12ヵ月 × 2人] 【非正規】: 可処分所得157,924円 [188,000 - (源泉徴収税4,340 + 健康保険料9,472 + 厚生年金保険料16,264) × 12ヵ月 × 12人] 【正規】: 非正規 倍率: 就業基礎基本統計調査 【福祉事業所】: 17,000円/月 × 12ヵ月 × 8人 【中間就労】: 40,000円/月 × 12ヵ月 × 4人 * 困難度の高度・中・低度別に就労決定者数を算出し、金銭的代理指標(正規・非正規・福祉事業所・中間就労)により所得を推計する。 就労項目について、合宿型と通所で困難度別就労率が算出できないため、他の項目のように差異・増分を推計できない。 そこで、就労項目では、コントロール群を設定せず死荷重によりサポステ通所で就労できたと考えられる就労分を控除する。 死荷重は、合宿型で困難度の高い若者を訓練させ就労達成している効果も貨幣化するため、困難度を(高度・中・低度)の3分類にし、それぞれに死荷重を設定して控除する。	就労決定者数(実績: 高度困難者) 26人 正規: 2人 非正規: 12人 福祉事業所: 8人 中間就労: 4人	26人 未回答: 1人* * 就労形態未回答は「非正規」とみなす(以下同様)		31,011,504 [①②③④] ①正規: 4,718,448 ②非正規: 22,741,056 ③福祉事業所: 1,632,000 ④中間就労: 1,920,000	0% 93.2%	28,902,722	
		就労決定【中高度困難者】	就労達成による所得の増加【中高度困難者: 21点以上34点以下】 就労決定者数(困難度20点~34点) × 金銭的代理指標	【正規】: 可処分所得196,602円 [235,100 - (源泉徴収税5,990 + 健康保険料11,964 + 厚生年金保険料20,544) × 12ヵ月 × 4人] 【非正規】: 可処分所得157,924円 [188,000 - (源泉徴収税4,340 + 健康保険料9,472 + 厚生年金保険料16,264) × 12ヵ月 × 21人] 【福祉事業所】: [17,000円/月 × 12ヵ月 × 2人(B)] + [神奈川県最低賃金 * 868円 × 6h × 5日 × 4週 × 12ヵ月 × 1人(A)] = 408,000円 + 1,249,920円 【中間就労】: 40,000円/月 × 12ヵ月 × 5人 * 神奈川県ホームページhttp://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f160038/地域別最低賃金/平成25年10月20日改正	就労決定者数(実績: 中高度困難者) 33人 正規: 4人 非正規: 21人 福祉事業所: 3人 中間就労: 5人	33人 未回答: 4人*		53,291,664 [①②③④] ①正規: 9,436,896 ②非正規: 39,796,848 ③福祉事業所: 1,657,920 ④中間就労: 2,400,000	20% 93.2%	39,734,265	
		就労決定【低度困難者】	就労達成による所得の増加【低度困難者: 20点以下】 就労決定者数(困難度20点以下) × 金銭的代理指標	【正規】: 可処分所得196,602円 [235,100 - (源泉徴収税5,990 + 健康保険料11,964 + 厚生年金保険料20,544) × 12ヵ月 × 3人] 【非正規】: 可処分所得157,924円 [188,000 - (源泉徴収税4,340 + 健康保険料9,472 + 厚生年金保険料16,264) × 12ヵ月 × 7人] 【福祉事業所】: 0人 【中間就労】: 0人	就労決定者数(実績: 低度困難者) 10人 正規: 3人 非正規: 7人 福祉事業所: 0 中間就労別: 0	10人 未回答: 4人*		20,343,288 [①②] ①正規: 7,077,672 ②非正規: 13,265,616	50% 93.2%	9,479,972	
	就労継続度の向上	就労決定者数に占める1年間以上の就労継続者数の割合の増加 * 「1年間以上の就労継続者数」とは、①2012年6月以前までの進路決定者で、②③のうち現在の状況が「無業」を除き、③就業していた期間が1年以上の者の人数。	非正規雇用可処分所得(年額) × 就業継続者数(アンケート就業継続者) + 就業と近況アンケート(5)で、合宿型と通所型との間で「現在も就業中で、1年以上就業を継続している者の回答者に占める割合」の差分・増分を算出(8.7% = 合宿: 90.5% - 81.8%) * 計算式 合宿型就業継続者数(69人) × 増分(8.7%) = 6.0人 = 6人 * 非正規雇用可処分所得(年額)1,895,088円	就業継続者数(実績) 69人	合宿型 90.5% 通所型 81.8% 増分 8.7%	6人	11,370,528	-	93.2%	10,597,332	
	障害受容による障害基礎年金申請	障害基礎年金受給による所得の増加	障害基礎年金申請者数 19人(合宿型) × 障害基礎年金(2級)(年額) 772,800円	障害年金申請者数(実績) 19人			14,683,200	-	93.2%	13,684,742	
	障害受容度の深化	障害受容度の深化者数	精神科訪問看護・指導料 5,750円 × 3日 + 6,750円 × 7日(10日分) = 64,500円 * 利用者近況アンケート①の関連項目[1]未所時に発達障害の診断あり 3. 障害受容が深まった * 計算式 合宿型の深化割合86.7% - 通所型の深化割合50.0% = 差異・増分(36.7%) 合宿型参加者数181人 × 差異・増分(36.7%) = 合宿型プログラムによる障害受容度の深化者数66人 合宿型による障害受容度の深化者数(66人) × 金銭的代理指標(64,500円) = 便益価値額4,257,000円	合宿参加者数 181人	合宿型 86.7% 通所型 50.0% 増分 36.7%	66人	4,257,000	100.0%	4,257,000		
	働く自信の向上	自信向上者数	カウンセリング費用(1回) 4,539.6円 × 認知行動療法面接回数 10回 × 実数(アンケート改善者) * 利用者近況アンケート④(4, 3のいずれかに○) * 計算式 合宿型の改善割合76.3% - 通所型の改善割合79.1% = 差異・増分(-2.8%) 合宿型参加者数181人 × 差異・増分(-2.8%) = 合宿型プログラムによる改善者増加人数 * 人 合宿型による改善者増加人数 × 金銭的代理指標 = 便益価値額 * 円 * 改善割合が通所型と比較してわずかに「マイナス」となったため、増分の貨幣換算は無し(通所型より困難度の高い利用者が多いので、働く自信の向上度合いがやや低いのは想定内の結果ともいえる)	合宿参加者数 181人	合宿型 76.3% 通所型 79.1% 差異 -2.8%	0人	0	-	93.2%	0	
	職業選択機会の拡大	職業選択機会の拡大者数	キャリアコンサルティング費用 50,000円(10回) × 実数(合宿型)(アンケート改善者) * 利用者近況アンケート⑥(4, 3のいずれかに○) * 計算式 合宿型の改善割合66.1% - 通所型の改善割合55.8% = 差異・増分(10.3%) 合宿型参加者数181人 × 差異・増分(10.3%) = 合宿型プログラムによる改善者増加人数19人 合宿型による改善者増加人数(19人) × 金銭的代理指標(50,000円) = 便益価値額950,000円	合宿参加者数 181人	合宿型 66.1% 通所型 55.8% 増分 10.3%	19人	950,000	-	93.2%	885,400	
	生活リズムの改善	生活の規則正しさ向上者数	カウンセリング費用(1回) 4,539.6円 × 認知行動療法面接回数 10回 × 実数(アンケート改善者) * 利用者近況アンケート⑤(4, 3のいずれかに○) * 計算式 合宿型の改善割合86.7% - 通所型の改善割合83.3% = 差異・増分(3.4%) 合宿型参加者数181人 × 差異・増分(3.4%) = 合宿型プログラムによる改善者増加人数6人 合宿型による改善者増加人数(6人) × 金銭的代理指標(45,396円) = 便益価値額272,376円	合宿参加者数 181人	合宿型 86.7% 通所型 83.3% 増分 3.4%	6人	272,376	93.2%	253,854		
	社会的関係の改善/社会的孤立の解消	社交(友人との外出・外食等)の機会の増加	喫茶代金5,864円(年額) × 該当者実数 31人(合宿型)(アンケート改善者) * 利用者近況アンケート⑧(4, 3のいずれかに○) * H25年度総務省家計調査年報(家計収支編) * 計算式 合宿型の改善割合51.7% - 通所型の改善割合41.9% = 差異・増分(9.8%) 合宿型参加者数181人 × 差異・増分(9.8%) = 合宿型プログラムによる改善者増加人数18人 合宿型による改善者増加人数(18人) × 金銭的代理指標(5,864円) = 便益価値額105,552円	合宿参加者数 181人	合宿型 51.7% 通所型 41.9% 増分 9.8%	18人	105,552	-	93.2%	98,374	
家族	家族の障害受容	障害受容をした家族の人数	精神科訪問看護・指導料 5,750円 × 3日 + 6,750円 × 7日(10日分) = 64,500円 近況アンケート①の関連項目【5】家族の障害受容で、「3. 障害受容が深まった」 * 計算式 合宿型の深化割合63.6% - 通所型の深化割合25.0% = 増分(38.6%) 合宿型参加者数181人 × 増分(38.6%) = 合宿型による障害受容をした家族の人数(69.8人) 合宿型による障害受容をした家族の人数(70人) × 金銭的代理指標(64,500円) = 便益価値額4,515,000円	合宿参加者数 181人	合宿型 63.6% 通所型 25.0% 増分 38.6%	70人	4,515,000	100.0%	4,515,000		
政府・横浜市	参加者の就労決定により、所得税収入の増加	所得税の増加	一般就労1人当りの月額所得額より、年間所得税額の推計 ①高度困難者: A. 正規就労決定者2人 × 源泉税5,990円 × 12 = 143,760円 B. 非正規就労決定者12人 × 源泉税4,340円 × 12 = 624,960円 ②中高度困難者: A. 正規就労決定者4人 × 源泉税5,990円 × 12 = 287,520円 B. 非正規就労決定者21人 × 源泉税4,340円 × 12 = 1,093,680円 ③低度困難者: A. 正規就労決定者3人 × 源泉税5,990円 × 12 = 215,640円 B. 非正規就労決定者7人 × 源泉税4,340円 × 12 = 364,560円	就労決定者数 ①高度困難者 正規: 2人 非正規: 12人 ②中高度困難者 正規: 4人 非正規: 21人 ③低度困難者 正規: 3人 非正規: 7人	就労決定者数 正規: 9人 非正規: 40人	①A: 143,760 ①B: 624,960 ②A: 287,520 ②B: 1,093,680 ③A: 215,640 ③B: 364,560	0% 0% 20% 20% 50% 50%	93.2% 93.2%	133,984 582,463 214,375 815,448 100,488 169,885 計2,016,643		
	参加者の就労決定により、社会保険料収入の増加	社会保険料収入の増加	一般就労1人当りの月額社会保険料より、年間社会保険料額の推計 ①高度困難者: A. 正規就労決定者2人 × 健康保険料・年金保険料32,508円 × 12 = 780,192円 B. 非正規就労決定者12人 × 健康保険料・年金保険料25,736円 × 12 = 3,705,984円 ②中高度困難者: A. 正規就労決定者4人 × 健康保険料・年金保険料32,508円 × 12 = 1,560,384円 B. 非正規就労決定者21人 × 健康保険料・年金保険料25,736円 × 12 = 6,485,472円 ③低度困難者: A. 正規就労決定者3人 × 健康保険料・年金保険料32,508円 × 12 = 1,170,288円 B. 非正規就労決定者7人 × 健康保険料・年金保険料25,736円 × 12 = 2,161,824円	同上	同上	①A: 780,192 ①B: 3,705,984 ②A: 1,560,384 ②B: 6,485,472 ③A: 1,170,288 ③B: 2,161,824	0% 0% 20% 20% 50% 50%	93.2% 93.2%	727,139 3,453,977 1,163,422 4,835,568 545,354 1,007,410 計11,732,870		
アウトカムの社会的価値総額(総便益)										126,158,174	
アウトカムの純価値額(純便益) - 総費用										19,248,792	
社会的投資収益率(SROI)										1.18	
合宿型プログラム費用計(推計)(2010年度~2013年度まで)										¥106,909,382	
費用合計										¥106,909,382	

## 5. 考察

本評価では、SROIアプローチを用いて、K2グループのよこはま型合宿プログラム(2010年度から2013年度)のインパクト評価を行った。その結果、創出された社会的便益は約1億3,000万円、SROI値は1.18である。1.18という社会的投資収益率は投入された費用を上回る十分な効果があったことを示しており、本プログラムの有効性と効率性が実証された。就労に結びつけることが難しい、より困難な問題を抱える無業の若者を対象とした就労支援プログラムのSROIという点では、決して低くない数値とみなすことができる。

本SROI評価では、就労というアウトカムのみならず、自信の向上や精神的不安の減少など、中間的アウトカムについても客観的な全国データや、信頼できる精神療法(認知行動療法)マニュアルに基づいた金銭的代理指標を設定してSROIの推計の対象とした。K2の特徴である包括的支援アプローチをある程度踏まえた分析ができたと考えている。

特に今回のSROI分析では、利用者が抱える困難度を踏まえて、そのアウトカムを計測できたという点では画期的であったと評価している。すなわち、就労決定という最終アウトカムの数値だけに注目すると、より困難なグループを支援する若者支援団体の成果は低く評価されがちである。また就労決定率をあげるために、困難度が高い利用者よりも、困難度が低い利用者を意図的に選別し受け入れるという「クリームスキミング」も生じかねない。そのような問題を回避するためにも、より利用者の実態を踏まえた有効性や効率性に関する評価手法の開発が必要となろう。

しかしながら、今回のSROI推計でも、困難を抱えた若者に対する支援のアウトカムを必ずしも十分に把握できたわけではない。特にターゲット・グループ(合宿型利用者)とその比較対象のコントロール・グループ(通所型利用者)間のアウトカムの差異(増分)の把握の問題である。現場で若者と接するリーダー・スタッフには、今回のデータよりもその差異(合宿型の優位性)はもっと高いという印象を受けているようである。そうした調査(アンケート等)で得られた数値と現場スタッフの「肌感覚」とのズレは可能な限り埋める必要があると考えるが、今後の課題としたい。

<b>アウトカムの社会的価値総額(総便益)</b>	<b>126,158,174</b>
<b>アウトカムの純価値額(純便益額)(総便益 - 総費用)</b>	<b>19,248,792</b>
<b>社会的投資収益率(SROI)</b>	<b>1.18</b>

### 参考文献

宮本みち子(2012)『若者が無縁化する—仕事・福祉・コミュニティでつなぐ』ちくま新書。

## 【参考資料】利用者近況アンケート集計結果

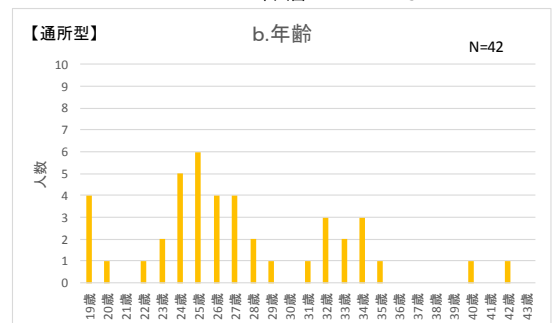
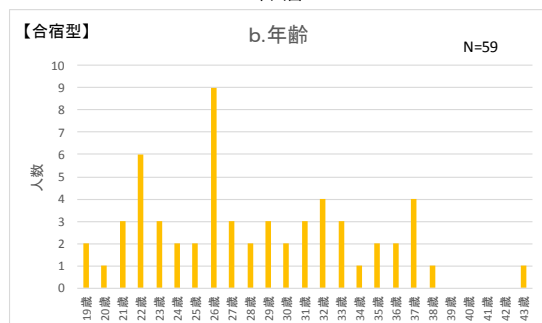
アンケート回収数：【合宿型】：61人※ 【通所型】：45人

※うち3名については、アンケートでは「通い」の分類に入っていたが、原票リストより合宿型の経験有にチェックが入っていたため、「合宿型」の分類に移動した。

	合宿型	通所型	合計
原票データ	71	134	205
困難度データ無効	2	7	9
原票有効データ	69	127	196
アンケート回収	61	45	106

【合宿型】	人数(人)	割合(%)
19歳	2	3.4%
20歳	1	1.7%
21歳	3	5.1%
22歳	6	10.2%
23歳	3	5.1%
24歳	2	3.4%
25歳	2	3.4%
26歳	9	15.3%
27歳	3	5.1%
28歳	2	3.4%
29歳	3	5.1%
30歳	2	3.4%
31歳	3	5.1%
32歳	4	6.8%
33歳	3	5.1%
34歳	1	1.7%
35歳	2	3.4%
36歳	2	3.4%
37歳	4	6.8%
38歳	1	1.7%
39歳	0	0.0%
40歳	0	0.0%
41歳	0	0.0%
42歳	0	0.0%
43歳	1	1.7%
計	59	100.0%
未回答	2	

【通所型】	人数(人)	割合(%)
19歳	4	9.5%
20歳	1	2.4%
21歳	0	0.0%
22歳	1	2.4%
23歳	2	4.8%
24歳	5	11.9%
25歳	6	14.3%
26歳	4	9.5%
27歳	4	9.5%
28歳	2	4.8%
29歳	1	2.4%
30歳	0	0.0%
31歳	1	2.4%
32歳	3	7.1%
33歳	2	4.8%
34歳	3	7.1%
35歳	1	2.4%
36歳	0	0.0%
37歳	0	0.0%
38歳	0	0.0%
39歳	0	0.0%
40歳	1	2.4%
41歳	0	0.0%
42歳	1	2.4%
43歳	0	0.0%
計	42	100.0%
未回答	3	

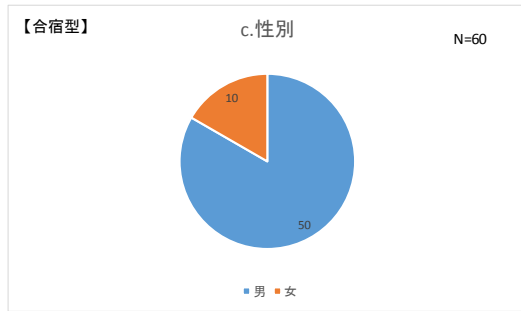


c.性別

【合宿型】

	人数 (人)	割合 (%)
男	50	83.3%
女	10	16.7%
計	60	100.0%

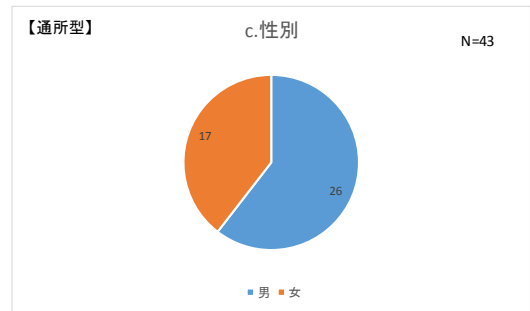
未回答 1



【通所型】

	人数 (人)	割合 (%)
男	26	60.5%
女	17	39.5%
計	43	100.0%

未回答 2

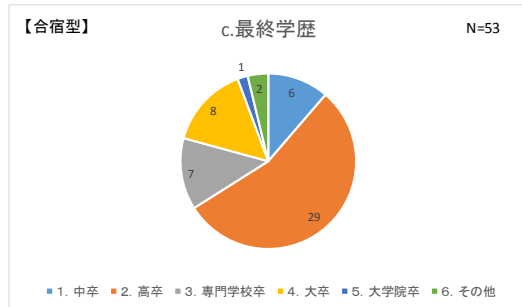


c.最終学歴

【合宿型】

	人数 (人)	割合 (%)
1. 中卒	6	11.3%
2. 高卒	29	54.7%
3. 専門学校卒	7	13.2%
4. 大卒	8	15.1%
5. 大学院卒	1	1.9%
6. その他	2	3.8%
計	53	100.0%

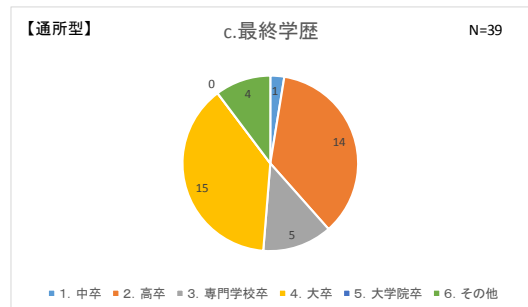
未回答 8



【通所型】

	人数 (人)	割合 (%)
1. 中卒	1	2.6%
2. 高卒	14	35.9%
3. 専門学校卒	5	12.8%
4. 大卒	15	38.5%
5. 大学院卒	0	0.0%
6. その他	4	10.3%
計	39	100.0%

未回答 6

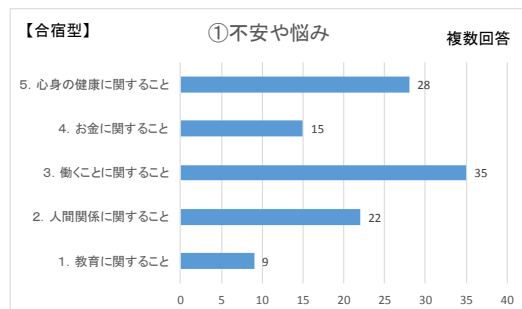


①来所前にどのような不安や悩みを抱えていたのか、教えてください (該当するものすべてに○)。  
来所し支援を受けたことで、もともと抱えていた不安や悩みはどの程度、解消されましたか？

<複数回答>

【合宿型】

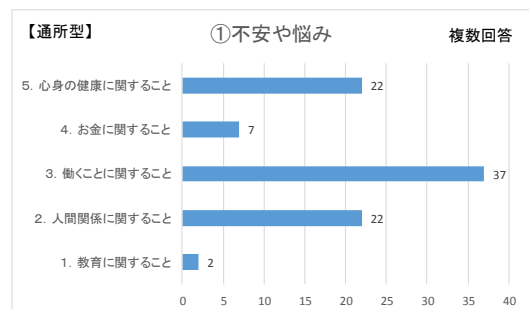
	人数 (人)	割合 (%)
1. 教育に関すること	9	8.3%
2. 人間関係に関すること	22	20.2%
3. 働くことに関すること	35	32.1%
4. お金に関すること	15	13.8%
5. 心身の健康に関すること	28	25.7%
計	109	100.0%



<複数回答>

【通所型】

	人数 (人)	割合 (%)
1. 教育に関すること	2	2.2%
2. 人間関係に関すること	22	24.4%
3. 働くことに関すること	37	41.1%
4. お金に関すること	7	7.8%
5. 心身の健康に関すること	22	24.4%
計	90	100.0%



1. 教育に関すること

【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	1	11.1%
2.どちらかといえば解決しなかった	1	11.1%
3.どちらかといえば解決した	3	33.3%
4.解決した	4	44.4%
計	9	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	7	77.8%
未回答	0	
無効回答	18	

【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	0	0.0%
2.どちらかといえば解決しなかった	0	0.0%
3.どちらかといえば解決した	2	100.0%
4.解決した	0	0.0%
計	2	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	2	100.0%
未回答	0	
無効回答	4	

2. 人間関係に関すること

【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	1	4.5%
2.どちらかといえば解決しなかった	4	18.2%
3.どちらかといえば解決した	13	59.1%
4.解決した	4	18.2%
計	22	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	17	77.3%
未回答	0	
無効回答	24	

【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	0	0.0%
2.どちらかといえば解決しなかった	9	42.9%
3.どちらかといえば解決した	10	47.6%
4.解決した	2	9.5%
計	21	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	12	57.1%
未回答	1	
無効回答	3	

3. 働くことに関すること

【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	2	5.7%
2.どちらかといえば解決しなかった	5	14.3%
3.どちらかといえば解決した	14	40.0%
4.解決した	14	40.0%
計	35	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	28	80.0%
未回答	0	
無効回答	22	

【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	1	2.8%
2.どちらかといえば解決しなかった	2	5.6%
3.どちらかといえば解決した	21	58.3%
4.解決した	12	33.3%
計	36	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	33	91.7%
未回答	1	
無効回答	5	

4. お金に関すること

【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	2	13.3%
2.どちらかといえば解決しなかった	2	13.3%
3.どちらかといえば解決した	9	60.0%
4.解決した	2	13.3%
計	15	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	11	73.3%
未回答	0	
無効回答	25	

【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	0	0.0%
2.どちらかといえば解決しなかった	2	33.3%
3.どちらかといえば解決した	4	66.7%
4.解決した	0	0.0%
計	6	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	4	66.7%
未回答	1	
無効回答	3	

5. 心身の健康に関すること

【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	2	7.4%
2.どちらかといえば解決しなかった	3	11.1%
3.どちらかといえば解決した	17	63.0%
4.解決した	5	18.5%
計	27	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	22	81.5%
未回答	1	
無効回答	23	

【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
1.解決しなかった	1	4.5%
2.どちらかといえば解決しなかった	4	18.2%
3.どちらかといえば解決した	16	72.7%
4.解決した	1	4.5%
計	22	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	17	77.3%
未回答	0	
無効回答	4	

②K2の支援を受けている際に、他機関から類似の支援を受けたことがありますか？

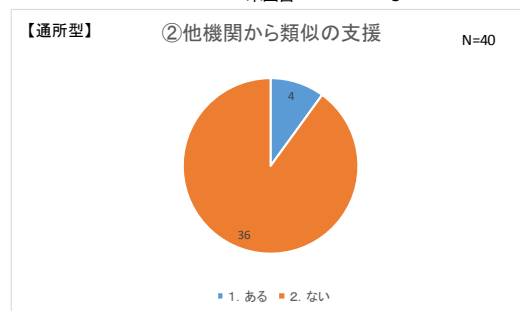
【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
1. ある	4	6.8%
2. ない	55	93.2%
計	59	100.0%

未回答 2



【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
1. ある	4	10.0%
2. ない	36	90.0%
計	40	100.0%

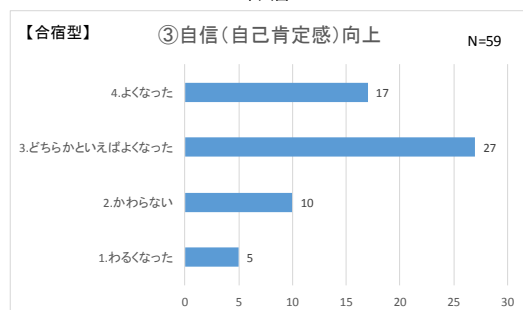
未回答 5



③来所前と比較して、自信（自己肯定感）は向上しましたか？

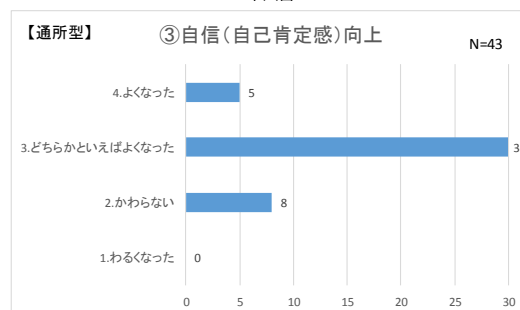
【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
1. わるくなった	5	8.5%
2. かわらない	10	16.9%
3. どちらかといえばよくなった	27	45.8%
4. よくなった	17	28.8%
計	59	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	44	74.6%

未回答 2



【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
1. わるくなった	0	0.0%
2. かわらない	8	18.6%
3. どちらかといえばよくなった	30	69.8%
4. よくなった	5	11.6%
計	43	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	35	81.4%

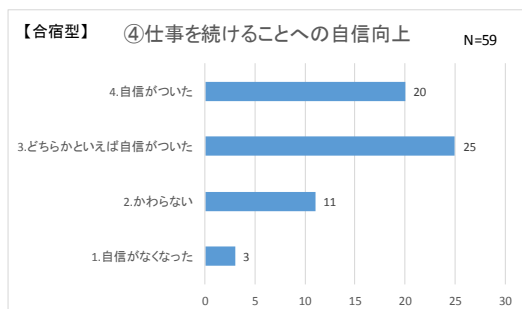
未回答 2



④来所し支援を受けたことで、仕事を続けることへの自信は向上しましたか？

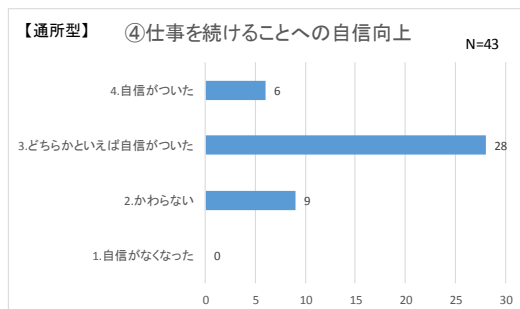
【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
1. 自信がなくなった	3	5.1%
2. かわらない	11	18.6%
3. どちらかといえば自信がついた	25	42.4%
4. 自信がついた	20	33.9%
計	59	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	45	76.3%

未回答 2



【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
1. 自信がなくなった	0	0.0%
2. かわらない	9	20.9%
3. どちらかといえば自信がついた	28	65.1%
4. 自信がついた	6	14.0%
計	43	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	34	79.1%

未回答 2



⑤来所後はじめての就職先が決定してから現在までの就業していた期間、無業の期間、職業訓練を受けていた期間、転職回数をお教えてください。

1. 就業していた期間

【合宿型】

	人数 (人)	割合 (%)
0.5ヶ月		0.0%
1ヶ月	1	1.7%
2ヶ月	0	0.0%
3ヶ月	6	10.3%
4ヶ月	1	1.7%
5ヶ月	0	0.0%
6ヶ月	3	5.2%
7ヶ月	1	1.7%
8ヶ月	1	1.7%
9ヶ月	1	1.7%
10ヶ月	1	1.7%
11ヶ月	1	1.7%
12ヶ月 (1年)	1	1.7%
13ヶ月 (1年1ヶ月)	0	0.0%
14ヶ月 (1年2ヶ月)	0	0.0%
15ヶ月 (1年3ヶ月)	4	6.9%
16ヶ月 (1年4ヶ月)	1	1.7%
17ヶ月 (1年5ヶ月)	2	3.4%
18ヶ月 (1年6ヶ月)	2	3.4%
19ヶ月 (1年7ヶ月)	0	0.0%
20ヶ月 (1年8ヶ月)	1	1.7%
21ヶ月 (1年9ヶ月)	0	0.0%
22ヶ月 (1年10ヶ月)	1	1.7%
23ヶ月 (1年11ヶ月)	0	0.0%
24ヶ月 (2年)	4	6.9%
25ヶ月 (2年1ヶ月)	0	0.0%
26ヶ月 (2年2ヶ月)	0	0.0%
27ヶ月 (2年3ヶ月)	3	5.2%
28ヶ月 (2年4ヶ月)	2	3.4%
29ヶ月 (2年5ヶ月)	1	1.7%
30ヶ月 (2年6ヶ月)	3	5.2%
31ヶ月 (2年7ヶ月)	0	0.0%
32ヶ月 (2年8ヶ月)	3	5.2%
33ヶ月 (2年9ヶ月)	1	1.7%
34ヶ月 (2年10ヶ月)	1	1.7%
35ヶ月 (2年11ヶ月)	1	1.7%
36ヶ月 (3年)	5	8.6%
37ヶ月 (3年1ヶ月)	0	0.0%
38ヶ月 (3年2ヶ月)	3	5.2%
39ヶ月 (3年3ヶ月)	0	0.0%
40ヶ月 (3年4ヶ月)	1	1.7%
41ヶ月 (3年5ヶ月)	1	1.7%
42ヶ月 (3年6ヶ月)	1	1.7%
計	58	100.0%

未回答 3  
※平均 21.6 ヶ月

【通所型】

	人数 (人)	割合 (%)
0.5ヶ月	2	4.7%
1ヶ月	0	0.0%
2ヶ月	1	2.3%
3ヶ月	4	9.3%
4ヶ月	0	0.0%
5ヶ月	3	7.0%
6ヶ月	5	11.6%
7ヶ月	2	4.7%
8ヶ月	2	4.7%
9ヶ月	1	2.3%
10ヶ月	0	0.0%
11ヶ月	2	4.7%
12ヶ月 (1年)	2	4.7%
13ヶ月 (1年1ヶ月)	3	7.0%
14ヶ月 (1年2ヶ月)	1	2.3%
15ヶ月 (1年3ヶ月)	1	2.3%
16ヶ月 (1年4ヶ月)	2	4.7%
17ヶ月 (1年5ヶ月)	1	2.3%
18ヶ月 (1年6ヶ月)	0	0.0%
19ヶ月 (1年7ヶ月)	0	0.0%
20ヶ月 (1年8ヶ月)	2	4.7%
21ヶ月 (1年9ヶ月)	0	0.0%
22ヶ月 (1年10ヶ月)	0	0.0%
23ヶ月 (1年11ヶ月)	0	0.0%
24ヶ月 (2年)	1	2.3%
25ヶ月 (2年1ヶ月)	1	2.3%
26ヶ月 (2年2ヶ月)	0	0.0%
27ヶ月 (2年3ヶ月)	2	4.7%
28ヶ月 (2年4ヶ月)	0	0.0%
29ヶ月 (2年5ヶ月)	1	2.3%
30ヶ月 (2年6ヶ月)	0	0.0%
31ヶ月 (2年7ヶ月)	1	2.3%
32ヶ月 (2年8ヶ月)	0	0.0%
33ヶ月 (2年9ヶ月)	0	0.0%
34ヶ月 (2年10ヶ月)	0	0.0%
35ヶ月 (2年11ヶ月)	1	2.3%
36ヶ月 (3年)	1	2.3%
37ヶ月 (3年1ヶ月)	1	2.3%
38ヶ月 (3年2ヶ月)	0	0.0%
39ヶ月 (3年3ヶ月)	0	0.0%
40ヶ月 (3年4ヶ月)	0	0.0%
41ヶ月 (3年5ヶ月)	0	0.0%
42ヶ月 (3年6ヶ月)	0	0.0%
計	43	100.0%

未回答 2  
※平均 13.3 ヶ月



2. 無業であった期間

【合宿型】	人数 (人)	割合 (%)
0ヶ月	29	63.0%
0.5ヶ月	0	0.0%
1ヶ月	2	4.3%
2ヶ月	1	2.2%
3ヶ月	3	6.5%
4ヶ月	0	0.0%
5ヶ月	1	2.2%
6ヶ月	1	2.2%
7ヶ月	0	0.0%
8ヶ月	1	2.2%
9ヶ月	0	0.0%
10ヶ月	0	0.0%
11ヶ月	0	0.0%
12ヶ月 (1年)	2	4.3%
13ヶ月 (1年1ヶ月)	0	0.0%
14ヶ月 (1年2ヶ月)	0	0.0%
15ヶ月 (1年3ヶ月)	1	2.2%
16ヶ月 (1年4ヶ月)	0	0.0%
17ヶ月 (1年5ヶ月)	0	0.0%
18ヶ月 (1年6ヶ月)	0	0.0%
19ヶ月 (1年7ヶ月)	0	0.0%
20ヶ月 (1年8ヶ月)	1	2.2%
21ヶ月 (1年9ヶ月)	0	0.0%
22ヶ月 (1年10ヶ月)	0	0.0%
23ヶ月 (1年11ヶ月)	0	0.0%
24ヶ月 (2年)	2	4.3%
25ヶ月 (2年1ヶ月)	0	0.0%
26ヶ月 (2年2ヶ月)	0	0.0%
27ヶ月 (2年3ヶ月)	0	0.0%
28ヶ月 (2年4ヶ月)	1	2.2%
29ヶ月 (2年5ヶ月)	0	0.0%
30ヶ月 (2年6ヶ月)	0	0.0%
31ヶ月 (2年7ヶ月)	0	0.0%
32ヶ月 (2年8ヶ月)	0	0.0%
33ヶ月 (2年9ヶ月)	1	2.2%
34ヶ月 (2年10ヶ月)	0	0.0%
35ヶ月 (2年11ヶ月)	0	0.0%
36ヶ月 (3年)	0	0.0%
37ヶ月 (3年1ヶ月)	0	0.0%
38ヶ月 (3年2ヶ月)	0	0.0%
39ヶ月 (3年3ヶ月)	0	0.0%
40ヶ月 (3年4ヶ月)	0	0.0%
41ヶ月 (3年5ヶ月)	0	0.0%
42ヶ月 (3年6ヶ月)	0	0.0%
計	46	100.0%

未回答 15  
 ※平均 4.3 ヶ月

【通所型】	人数 (人)	割合 (%)
0ヶ月	8	38.1%
0.5ヶ月	1	4.8%
1ヶ月	2	9.5%
2ヶ月	1	4.8%
3ヶ月	3	14.3%
4ヶ月	1	4.8%
5ヶ月	0	0.0%
6ヶ月	1	4.8%
7ヶ月	0	0.0%
8ヶ月	4	19.0%
9ヶ月	0	0.0%
10ヶ月	0	0.0%
11ヶ月	0	0.0%
12ヶ月 (1年)	0	0.0%
13ヶ月 (1年1ヶ月)	0	0.0%
14ヶ月 (1年2ヶ月)	0	0.0%
15ヶ月 (1年3ヶ月)	0	0.0%
16ヶ月 (1年4ヶ月)	0	0.0%
17ヶ月 (1年5ヶ月)	0	0.0%
18ヶ月 (1年6ヶ月)	0	0.0%
19ヶ月 (1年7ヶ月)	0	0.0%
20ヶ月 (1年8ヶ月)	0	0.0%
21ヶ月 (1年9ヶ月)	0	0.0%
22ヶ月 (1年10ヶ月)	0	0.0%
23ヶ月 (1年11ヶ月)	0	0.0%
24ヶ月 (2年)	0	0.0%
25ヶ月 (2年1ヶ月)	0	0.0%
26ヶ月 (2年2ヶ月)	0	0.0%
27ヶ月 (2年3ヶ月)	0	0.0%
28ヶ月 (2年4ヶ月)	0	0.0%
29ヶ月 (2年5ヶ月)	0	0.0%
30ヶ月 (2年6ヶ月)	0	0.0%
31ヶ月 (2年7ヶ月)	0	0.0%
32ヶ月 (2年8ヶ月)	0	0.0%
33ヶ月 (2年9ヶ月)	0	0.0%
34ヶ月 (2年10ヶ月)	0	0.0%
35ヶ月 (2年11ヶ月)	0	0.0%
36ヶ月 (3年)	0	0.0%
37ヶ月 (3年1ヶ月)	0	0.0%
38ヶ月 (3年2ヶ月)	0	0.0%
39ヶ月 (3年3ヶ月)	0	0.0%
40ヶ月 (3年4ヶ月)	0	0.0%
41ヶ月 (3年5ヶ月)	0	0.0%
42ヶ月 (3年6ヶ月)	0	0.0%
計	21	100.0%

未回答 24  
 ※平均 2.6 ヶ月

3. 職業訓練を受けていた期間

【合宿型】

	人数 (人)	割合 (%)
0ヶ月	1	2.0%
0.3ヶ月	1	2.0%
1ヶ月	0	0.0%
2ヶ月	1	2.0%
3ヶ月	2	4.1%
4ヶ月	0	0.0%
5ヶ月	0	0.0%
6ヶ月	10	20.4%
7ヶ月	5	10.2%
8ヶ月	1	2.0%
9ヶ月	1	2.0%
10ヶ月	4	8.2%
11ヶ月	1	2.0%
12ヶ月 (1年)	7	14.3%
13ヶ月 (1年1ヶ月)	0	0.0%
14ヶ月 (1年2ヶ月)	2	4.1%
15ヶ月 (1年3ヶ月)	2	4.1%
16ヶ月 (1年4ヶ月)	0	0.0%
17ヶ月 (1年5ヶ月)	0	0.0%
18ヶ月 (1年6ヶ月)	0	0.0%
19ヶ月 (1年7ヶ月)	1	2.0%
20ヶ月 (1年8ヶ月)	0	0.0%
21ヶ月 (1年9ヶ月)	0	0.0%
22ヶ月 (1年10ヶ月)	1	2.0%
23ヶ月 (1年11ヶ月)	0	0.0%
24ヶ月 (2年)	1	2.0%
25ヶ月 (2年1ヶ月)	1	2.0%
26ヶ月 (2年2ヶ月)	0	0.0%
27ヶ月 (2年3ヶ月)	0	0.0%
28ヶ月 (2年4ヶ月)	0	0.0%
29ヶ月 (2年5ヶ月)	0	0.0%
30ヶ月 (2年6ヶ月)	0	0.0%
31ヶ月 (2年7ヶ月)	0	0.0%
32ヶ月 (2年8ヶ月)	0	0.0%
33ヶ月 (2年9ヶ月)	1	2.0%
34ヶ月 (2年10ヶ月)	0	0.0%
35ヶ月 (2年11ヶ月)	1	2.0%
36ヶ月 (3年)	2	4.1%
37ヶ月 (3年1ヶ月)	0	0.0%
38ヶ月 (3年2ヶ月)	0	0.0%
39ヶ月 (3年3ヶ月)	0	0.0%
40ヶ月 (3年4ヶ月)	0	0.0%
41ヶ月 (3年5ヶ月)	0	0.0%
42ヶ月 (3年6ヶ月)	0	0.0%
48ヶ月 (4年)	1	2.0%
54ヶ月 (4年6ヶ月)	1	2.0%
72ヶ月 (6年)	1	2.0%
計	49	100.0%

未回答 12  
※平均 14.6 ヶ月

【通所型】

	人数 (人)	割合 (%)
0ヶ月	12	85.7%
0.3ヶ月	0	0.0%
1ヶ月	0	0.0%
2ヶ月	1	7.1%
3ヶ月	1	7.1%
4ヶ月	0	0.0%
5ヶ月	0	0.0%
6ヶ月	0	0.0%
7ヶ月	0	0.0%
8ヶ月	0	0.0%
9ヶ月	0	0.0%
10ヶ月	0	0.0%
11ヶ月	0	0.0%
12ヶ月 (1年)	0	0.0%
13ヶ月 (1年1ヶ月)	0	0.0%
14ヶ月 (1年2ヶ月)	0	0.0%
15ヶ月 (1年3ヶ月)	0	0.0%
16ヶ月 (1年4ヶ月)	0	0.0%
17ヶ月 (1年5ヶ月)	0	0.0%
18ヶ月 (1年6ヶ月)	0	0.0%
19ヶ月 (1年7ヶ月)	0	0.0%
20ヶ月 (1年8ヶ月)	0	0.0%
21ヶ月 (1年9ヶ月)	0	0.0%
22ヶ月 (1年10ヶ月)	0	0.0%
23ヶ月 (1年11ヶ月)	0	0.0%
24ヶ月 (2年)	0	0.0%
25ヶ月 (2年1ヶ月)	0	0.0%
26ヶ月 (2年2ヶ月)	0	0.0%
27ヶ月 (2年3ヶ月)	0	0.0%
28ヶ月 (2年4ヶ月)	0	0.0%
29ヶ月 (2年5ヶ月)	0	0.0%
30ヶ月 (2年6ヶ月)	0	0.0%
31ヶ月 (2年7ヶ月)	0	0.0%
32ヶ月 (2年8ヶ月)	0	0.0%
33ヶ月 (2年9ヶ月)	0	0.0%
34ヶ月 (2年10ヶ月)	0	0.0%
35ヶ月 (2年11ヶ月)	0	0.0%
36ヶ月 (3年)	0	0.0%
37ヶ月 (3年1ヶ月)	0	0.0%
38ヶ月 (3年2ヶ月)	0	0.0%
39ヶ月 (3年3ヶ月)	0	0.0%
40ヶ月 (3年4ヶ月)	0	0.0%
41ヶ月 (3年5ヶ月)	0	0.0%
42ヶ月 (3年6ヶ月)	0	0.0%
48ヶ月 (4年)	0	0.0%
54ヶ月 (4年6ヶ月)	0	0.0%
72ヶ月 (6年)	0	0.0%
計	14	100.0%

未回答 31  
※平均 0.4 ヶ月

4. 転職回数

【合宿型】

	人数 (人)	割合 (%)
0回	30	63.8%
1回	13	27.7%
2回	3	6.4%
3回	1	2.1%
計	47	100.0%

未回答 14  
※平均 0.47 回

【通所型】

	人数 (人)	割合 (%)
0回	16	57.1%
1回	7	25.0%
2回	2	7.1%
3回	3	10.7%
計	28	100.0%

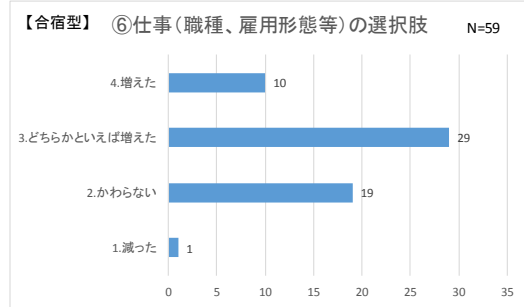
未回答 17  
※平均 0.71 回

⑥来所して支援を受けたことで、仕事（職種、雇用形態等）の選択肢は増えましたか？

【合宿型】

	人数（人）	割合（%）
1.減った	1	1.7%
2.かわらない	19	32.2%
3.どちらかといえば増えた	29	49.2%
4.増えた	10	16.9%
計	59	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	39	66.1%

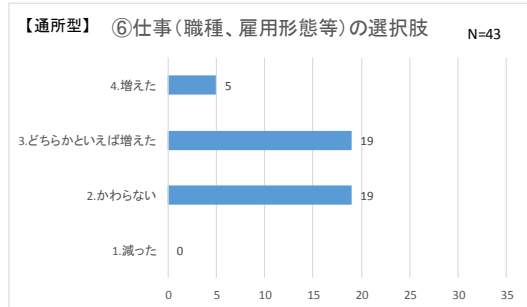
未回答 2



【通所型】

	人数（人）	割合（%）
1.減った	0	0.0%
2.かわらない	19	44.2%
3.どちらかといえば増えた	19	44.2%
4.増えた	5	11.6%
計	43	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	24	55.8%

未回答 2

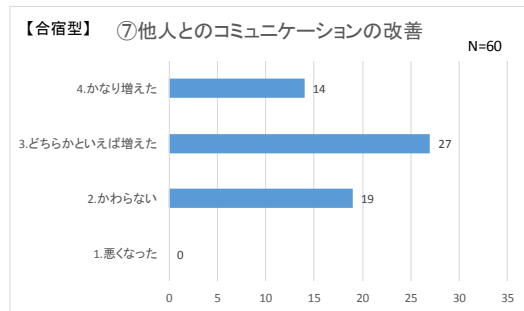


⑦来所して支援を受けたことで、他人とのコミュニケーションは改善されましたか？

【合宿型】

	人数（人）	割合（%）
1.悪くなった	0	0.0%
2.かわらない	19	31.7%
3.どちらかといえば増えた	27	45.0%
4.かなり増えた	14	23.3%
計	60	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	41	68.3%

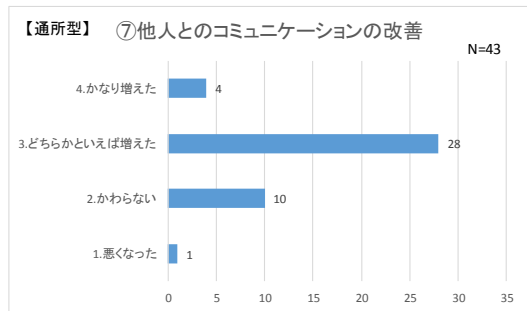
未回答 1



【通所型】

	人数（人）	割合（%）
1.悪くなった	1	2.3%
2.かわらない	10	23.3%
3.どちらかといえば増えた	28	65.1%
4.かなり増えた	4	9.3%
計	43	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	32	74.4%

未回答 2

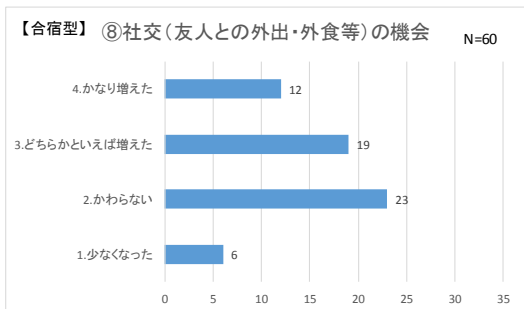


⑧来所して支援を受けたことで、社交（友人との外出・外食等）の機会は増えましたか？

【合宿型】

	人数（人）	割合（%）
1.少なくなった	6	10.0%
2.かわらない	23	38.3%
3.どちらかといえば増えた	19	31.7%
4.かなり増えた	12	20.0%
計	60	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	31	51.7%

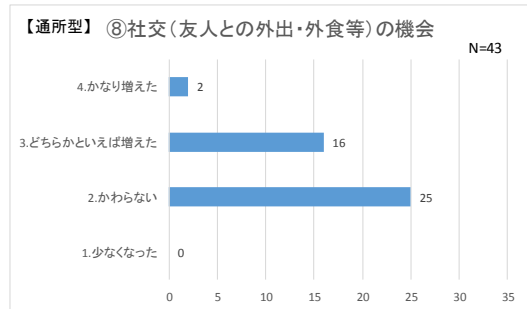
未回答 1



【通所型】

	人数（人）	割合（%）
1.少なくなった	0	0.0%
2.かわらない	25	58.1%
3.どちらかといえば増えた	16	37.2%
4.かなり増えた	2	4.7%
計	43	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	18	41.9%

未回答 2

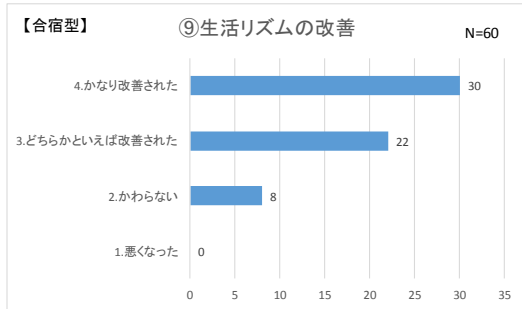


⑨来所し支援を受けたことで、生活のリズムは改善されましたか？

【合宿型】

	人数 (人)	割合 (%)
1.悪くなった	0	0.0%
2.かわらない	8	13.3%
3.どちらかといえば改善された	22	36.7%
4.かなり改善された	30	50.0%
計	60	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	52	86.7%

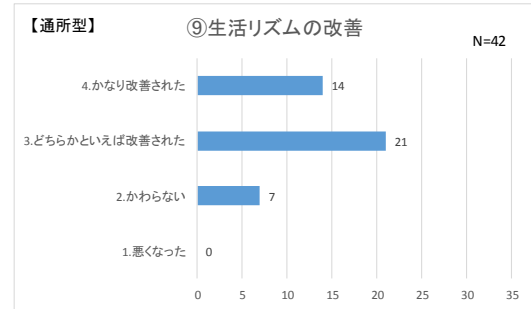
未回答 1



【通所型】

	人数 (人)	割合 (%)
1.悪くなった	0	0.0%
2.かわらない	7	16.7%
3.どちらかといえば改善された	21	50.0%
4.かなり改善された	14	33.3%
計	42	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	35	83.3%

未回答 3

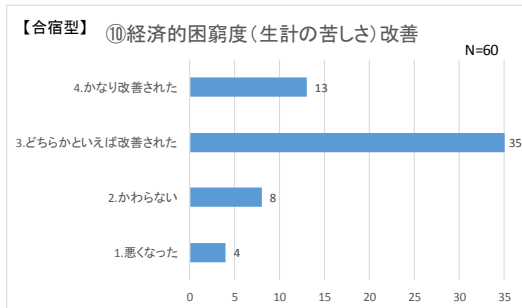


⑩来所し支援を受けたことで、経済的困窮度（生計の苦しさ）は改善されましたか？

【合宿型】

	人数 (人)	割合 (%)
1.悪くなった	4	6.7%
2.かわらない	8	13.3%
3.どちらかといえば改善された	35	58.3%
4.かなり改善された	13	21.7%
計	60	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	48	80.0%

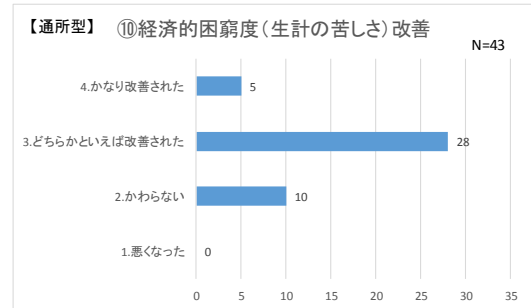
未回答 1



【通所型】

	人数 (人)	割合 (%)
1.悪くなった	0	0.0%
2.かわらない	10	23.3%
3.どちらかといえば改善された	28	65.1%
4.かなり改善された	5	11.6%
計	43	100.0%
3, 4 いずれかに○を付けた人	33	76.7%

未回答 2



ここからは、①と②に関連する質問です、回答が可能な方のみ、お答えください。

①の関連質問

さしつかえがなければ、下記、それぞれ必要な設問について、当てはまる項目すべてに○をつけ、現在までの変化の度合いに○をつけてください。

[1] 来所時に発達障害の診断あり

【合宿型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	1	6.7%
	2.かわらない	1	6.7%
	3.障害受容が深まった	13	86.7%
	計	15	100.0%
	未回答	46	

■その他の記述：手帳 5件

【通所型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	1	50.0%
	2.かわらない	0	0.0%
	3.障害受容が深まった	1	50.0%
	計	2	100.0%
	未回答	43	

■その他の記述：手帳を取得した 2014/6/2

[2] 来所時に発達障害の疑いあり (手帳が取得できそうである)

【合宿型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	2	5.9%
	2.かわらない	6	17.6%
	3.障害受容が深まった (診断を受けた)	26	76.5%
	計	34	100.0%
	未回答	27	

■その他の記述：手帳 1件、手帳取得 2件

【通所型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	0	0.0%
	2.かわらない	2	50.0%
	3.障害受容が深まった (診断を受けた)	2	50.0%
	計	4	100.0%
	未回答	41	

[3] 来所時に精神疾患の診断あり

【合宿型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	2	7.7%
	2.悪くなった	0	0.0%
	3.かわらない	4	15.4%
	4.どちらかといえば改善	19	73.1%
	5.かなり改善	1	3.8%
	計	26	100.0%
	未回答	35	

■その他の記述：手帳 1件、手帳取得 4件

【通所型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	0	0.0%
	2.悪くなった	0	0.0%
	3.かわらない	1	12.5%
	4.どちらかといえば改善	4	50.0%
	5.かなり改善	3	37.5%
	計	8	100.0%
	未回答	37	

[4] 知的障害手帳の有無

【合宿型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	3	6.4%
	2.K2での支援終了後に取得	0	0.0%
	3.来所前はなかったがK2支援により取得	6	12.8%
	4.来所前も現在も無し	38	80.9%
	計	47	100.0%
	未回答	14	

■その他の記述：来所前より 1件、来所時にすでに持っていた 1件、来所前より所有 1件

【通所型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	0	0.0%
	2.K2での支援終了後に取得	1	20.0%
	3.来所前はなかったがK2支援により取得	0	0.0%
	4.来所前も現在も無し	4	80.0%
	計	5	100.0%
	未回答	40	

■その他の記述：勧められたがとらなかった。とらないままアルバイトを始めた

[5] 障害者年金

【合宿型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	0	0.0%
	2.K2での支援終了後に受給	0	0.0%
	3.来所前はなかったがK2支援により申請	19	37.3%
	4.来所前も現在も無し	32	62.7%
	計	51	100.0%
	未回答	10	

【通所型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	0	0.0%
	2.K2での支援終了後に受給	1	20.0%
	3.来所前はなかったがK2支援により申請	0	0.0%
	4.来所前も現在も無し	4	80.0%
	計	5	100.0%
	未回答	40	

[5] 家族の障害受容

【合宿型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	0	0.0%
	2.かわらない	16	36.4%
	3.障害受容が深まった	28	63.6%
	計	44	100.0%
	未回答	17	

【通所型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.その他	0	0.0%
	2.かわらない	3	75.0%
	3.障害受容が深まった	1	25.0%
	計	4	100.0%
	未回答	41	

②の関連質問

来所前と来所後での生活保護給付の受給歴についてお教えてください。

【合宿型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.K2での支援終了後に受給	0	0.0%
	2.来所前はなかったがK2支援により申請	0	0.0%
	3.来所前も現在も無し	51	96.2%
	4.来所前から世帯分離し、個人で受給していた	1	1.9%
	5.来所前から生活保護家庭	1	1.9%
	計	53	100.0%
	未回答	8	

【通所型】		人数 (人)	割合 (%)
	1.K2での支援終了後に受給	0	0.0%
	2.来所前はなかったがK2支援により申請	0	0.0%
	3.来所前も現在も無し	31	96.9%
	4.来所前から世帯分離し、個人で受給していた	0	0.0%
	5.来所前から生活保護家庭	1	3.1%
	計	32	100.0%
	未回答	13	

# アンケート原票

記入日：2014年 月 日

## 利用者 近況アンケート

「K2で支援を受ける前」と、「K2で支援を受けてから現在までの状況」の変化についてうかがいます。

このアンケートは支援の効果を検証し、今後の支援に役立てるためのものです。アンケート結果は統計的に処理しますので、ご本人の氏名が公表されることはありませんし、個人情報も調査目的以外には使用しません。

a. 識別番号		d. 氏名	
b. 年齢	歳	a. 最終学歴	1. 中卒 2. 高卒 3. 専門学校卒 4. 大卒 5. 大学院卒 6. その他
c. 性別	男 女		

① 未満前のような不安や悩みを抱えていたのか、お教えてください（該当するものすべてに○）。  
未満し支援を受けたことで、もともと抱えていた不安や悩みはどの程度、解消されましたか？

	4 解決した	3 どちらかといえば解決した	2 どちらかといえば解決しなかった	1 解決しなかった
1. 教育に関すること（例：学校の勉強・成績、進学希望、学歴など）	4	3	2	1
2. 人間関係に関すること（例：家族、友人、職場の上司・同僚など）	4	3	2	1
3. 働くことに関すること（例：仕事内容、必要なスキル、希望職種、就職・転職など）	4	3	2	1
4. お金に関すること（例：給料・アルバイト料、各種年金・手当、生活保護など）	4	3	2	1
5. 心身の健康に関すること（例：自分に自信がない、落ち込みやすい、引きこもり、生活習慣など）	4	3	2	1

② K2の支援を受けている際に、他機関から類似の支援を受けたことがありますか？

1. ある      2. ない

「1. ある」と回答された方は、支援を受けた他機関すべてを下記から選択してください。

1. ハローワーク	2. 自治体によるサービス・講座等
3. 学校	4. その他の機関（具体的に：）

<b>③ 未病前と比較して、自信（自己肯定感）は向上しましたか？</b>	
4 よくなった	3 どちらかといえば よくなった
2 かわらない	1 わるくなった
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<b>④ 未病し支援を受けたことで、仕事を続けることへの自信は向上しましたか？</b>	
4 自信がついた	3 どちらかといえば 自信がついた
2 かわらない	1 自信がなくなった
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<b>⑤ 未病前はじめての就職先が決定してから現在までの就業していた期間、無業の期間、職業訓練を受けていた期間、転職回数をお教えてください。</b>	
1. 就業していた期間： 年 月	2. 無業であった期間： 年 月
3. 職業訓練を受けていた期間： 年 月	4. 転職回数 回
<b>⑥ 未病して支援を受けたことで、仕事（職種、雇用形態等）の選択肢は増えましたか？</b>	
4 増えた	3 どちらかといえば 増えた
2 かわらない	1 減った
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<b>⑦ 未病し支援を受けたことで、他人とのコミュニケーションは改善されましたか？</b>	
4 かなり増えた	3 どちらかといえば 増えた
2 かわらない	1 悪くなった
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<b>⑧ 未病し支援を受けたことで、社交（友人との外出・外食等）の機会は増えましたか？</b>	
4 かなり増えた	3 どちらかといえば 増えた
2 かわらない	1 少なくなった
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<b>⑨ 未病し支援を受けたことで、生活のリズムは改善されましたか？</b>	
4 かなり改善された	3 どちらかといえば 改善された
2 かわらない	1 悪くなった
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<b>⑩ 未病し支援を受けたことで、経済的困難度（生計の苦しさ）は改善されましたか？</b>	
4 かなり改善された	3 どちらかといえば 改善された
2 かわらない	1 悪くなった
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	

ここから先は、①と②に関連する質問です。回答が可能な方のみ、お答えください。

① の 関 連 質 問	さしつかえがなければ、下記、それぞれ必要な設問について、当てはまる項目 <u>すべて</u> に○をつけ、現在までの変化の度合いに○をつけてください。
	*その他は具体的に記入願います（例：「手帳を取得した」など）。
	[1] 未所時に発達障害の診断あり（ADHD、広汎性発達障害、アスペルガー、LD など）
	3 障害受容が深まった 2 かわらない 1 その他（ ）
	[2] 未所時に発達障害の疑いあり（手帳が取得できそうである）
3 障害受容が深まった（診断を受けた） 2 かわらない 1 その他（ ）	
[3] 未所時に精神疾患の診断あり（不変障害、うつ、統合失調症、パーソナリティ、摂食障害、依存症などの診断が出ている）	
5 かなり改善 4 どちらかといえば改善 3 かわらない 2 悪くなった 1 その他（ ）	
[4] 知的障害手帳の有無	
4 未所前も現在も無し、 3 未所前はなかったがK2支援により取得 2 K2での支援終了後に取得、 1 その他（ ）	
[5] 障害者年金	
4 未所前も現在も無し、 3 未所前はなかったがK2支援により申請 2 K2での支援終了後に受給、 1 その他（ ）	
[5] 家族の障害受容	
3 障害受容が深まった 2 かわらない 1 その他（ ）	
② の 関 連 質 問	未所前と未所後での生活保護給付の受給歴についてお教えてください。
5 未所前から生活保護家庭 4 未所前から世帯分離し、個人で受給していた、 3 未所前も現在も無し、 2 未所前はなかったがK2支援により申請 1 K2での支援終了後に受給、	



**発行元：** 株式会社 公共経営・社会戦略研究所（公社研）

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学 グローバルフロント 7階 407E

TEL: 03(3296)1151 FAX:03(3296)1152

E-mail: info@pmssi.co.jp

HP: <http://www1a.biglobe.ne.jp/pmssi/>

**発行日：** 2014年9月30日

**編集責任者：** 塚本一郎（公社研 代表・統括研究員）

**\* 無断転載及び出所明記無しの引用を禁ず**

© 2014 Public Management and Social Strategy Institute Inc.